

令和 6 年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団
(令和 7 年 3 月 31 日現在)

目 次

第 1	事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第 2	障害児入所施設八甲学園・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2
第 3	養護老人ホーム安生園・・・・・・・・・・・・・・・・	2 7
第 4	障害者総合福祉センターなつどまり・・・・・・・・	3 6
第 5	青森県長寿社会振興センター・・・・・・・・・・・・	6 2
第 6	青森県発達障害者支援センター・・・・・・・・・・・・	6 6
第 7	ライフサポートあおば・・・・・・・・・・・・・・・・	7 0
第 8	就労サポートセンターさつき・・・・・・・・・・・・	7 9
第 9	特別養護老人ホームすこやか苑・・・・・・・・・・・・	8 4
第10	就労サポートセンターはくちょう・・・・・・・・・・・・	9 1
第11	青森障害者就業・生活支援センターすこやか・・・・・・・・	9 7

第1 事務局（法人本部）

I 事務局（総務課・キャリア支援課）

1 概 況

令和6年度の法人内事業所の運営においては、令和6年5月、養護老人ホーム安生園の定員を100人から80人へ削減し経営改善に務めた。これにより空きスペースとなった部分を活用するため、令和6年10月から、青森障害者就業・生活支援センターすこやかを平内地区から養護老人ホーム安生園2階へ移転し運営した。最低賃金が上昇し物価も高騰する中、収支状況を踏まえた事業運営について検討した1年だった。

人材不足は引き続き法人の大きな課題となっており、職員の配置が事業運営や収支にも大きく影響することから、ハローワークを始めとした各種団体が主催する説明会に積極的に参加して、福祉の仕事の魅力を伝えたり企業のPRを行うなど人材確保に努めた。採用にあたっては、求職者のニーズを踏まえて短時間勤務者を積極的に採用したほか、障害者や高齢者の雇用も進めた。

2 重点事項の実施状況

（1）事務局総務課

① 安定した経営基盤の強化

令和6年度は3年に1回の各サービス報酬改定が実施された。前回の令和3年度報酬改定からの3年間、当法人は令和元年度から続くコロナ禍による利用者の利用率低下や入所制限等により収入が伸び悩んだ。同時に、ロシア・ウクライナ等の世界情勢による生活に密着した食材費や燃料費、生活用品等の物価高騰、併せて最低賃金の上昇により人件費も膨らむことで支出は引き続き増加傾向であった。

令和6年度は、法人全体での収支差額は約7,941千円と各施設とも支出削減の工夫を凝らし、当期の収支差額を黒字にすることができた。目標であった積立金について、法人本部で修繕積立金20,000千円、施設整備等積立金20,000千円を計上した。

② 組織体制の見直し

令和6年5月、養護老人ホーム安生園の定員を100人から80人へ削減し経営改善に務めた。これにより空きスペースとなった部分を活用するため、令和6年10月から、青森障害者就業・生活支援センターすこやかを平内地区から養護老人ホーム安生園2階へ移転し運営した。

ライフサポートあおばにおける児童発達支援センターについては、4月開設後の新報酬における収支状況等について、各補正予算時に確認した。

③ 賃上げに伴う給料表の確立

令和6年10月の最低賃金改定時に、青森県の最低賃金は時給953円となり、当法人の準職員（支援員）賃金の時給単価を上回ったため、令和6年10月から正職員及び準職員の給料表を改正した。

各サービス報酬の加算に関わる専門職（主に管理栄養士）の給料表の在り方についても以前から職員採用の面で課題となっていたため、給与検討委員会にて検討し、令和7年度から管理栄養士を総合職の給料表より単価の高い医療職給料表とし、専門職への給与面での待遇を手厚くすることとした。

④ 給料業務一極集中化の検討

令和6年度は、現在各所属で行っている非常勤職員の給与事務を事務局で一元化し、

事務員の人材が少ない中でも効率的に業務ができるよう検討する計画だった。

しかし、事務局職員の異動や職員の長期不在などにより、令和6年度中に検討することができなかったため、令和7年度に業務のDX推進を図るなど再度検討することとした。

(2) 事務局キャリア支援課

① 人材確保

少子化に伴う人材不足は引き続き大きな課題となっており、令和6年度も採用への対策を実施してきた。

学生や求職者と接することのできる会社説明会については、コロナ禍と異なり全て対面式で参加し、直接当事業団の詳細な説明や強みを伝えた。また、当事業団の各所属に実習に来た学生に対しても、施設に出向いて法人の説明をし、今後の就職活動のきっかけ作りにつなげた。目標であった年間15回以上の会社説明会参加に対し、自主開催も含めて14回の参加となった。また、採用に関するセミナーにも参加し、人材不足の中での企業のあり方を学び、人材確保への足掛かりとした。

当事業団の職員採用試験は年々受験者数が減少しており、令和6年度も1年を通して複数回に渡って採用試験を実施した。令和7年度新採用者は10人（内部登用者3人は除く）を確保することができたが、高等学校新卒者向けの一般公募も含め、応募者が0人の時もあり、さらなる人材確保への努力が必要と思われる。

■正職員採用試験の実施状況

(単位：人)

種 別	区 分	実施時期	応募者	合格者	辞退者	採用者	備 考
一般公募Ⅰ	一次募集	R6.5	0	0	—	0	
	二次募集	R6.6	1	0	—	0	
	三次募集	R6.8	4	3	1	2	
	四次募集	R6.10	7	6	1	5	
	五次募集	R7.1	3	3	1	2	
一般公募Ⅱ	—	R6.11	0	0	—	0	
小計 ①			15	12	3	9	7年度新規採用
一般公募Ⅲ	—	R6.12	1	1	0	1	
		R7.2	1	1	0	1	7年度採用へ変更
小計 ②			2	2	0	2	6年度中途採用
内部登用 ③		R6.11	3	3	0	3	
合計 (①+②+③)			20	17	3	14	

【種別の説明】

種 別	内 容
一般公募Ⅰ	次年度採用予定の、大卒・短大卒・専門学校卒・高等学校既卒者対象の正職員採用試験
一般公募Ⅱ	次年度採用予定の、高等学校新卒者対象の正職員採用試験
一般公募Ⅲ	当年度中に採用する、欠員補充のための正職員採用試験
内部登用	次年度採用予定の、当事業団非正規雇用職員対象の正職員採用試験

② 人材育成

「青森県すこやか福祉事業団人材育成計画」に基づき、新任職員研修、階層別研修、専門分野別研修など、カテゴリーに応じた研修を計画的に開催し、職員の資質向上に努めた。

内容の見直しや新たな研修講師の依頼など、研修プログラムの見直しを行ったほか、Web上で研修が受講できるeラーニング「サポーターズカレッジ」も引き続き実施し、職員が時間や場所を選ばずに研修を受講できる環境整備を進めた。法人内研修でのアンケートをQRコードで実施し、より手軽に多くの意見が出るよう工夫し、今後の研修プログラムに反映することとした。

研修実績については、別紙1「令和6年度法人内研修実施状況」(P9)参照。

③ 人材定着

採用された職員、特に新採用職員を中心に、離職に至ることのないようにフォローする体制を引き続き実施した。

新採用職員の育成やフォローを行う「エルダー制度」については、新採用職員が一人で悩みを抱えないような体制づくりに努めた。採用1年後には新任職員及びエルダーにアンケートを実施しており、すぐに相談できる環境にあると好評の声が多かった。また、「キャリア面談」により、節目の年度でキャリアコンサルタントと面談することにより自分のキャリアを振り返り、課題やその解決方法を相談することによって離職防止につなげた。

令和6年度はこれらに加えて「新採用者フォローアップ面談」を実施した。事務局キャリア支援課職員が新採用者との関係性を生かして採用後に面談を実施し、早期に就職後の悩みや不安を吸い上げた。令和5年度は予定していた回数を実施できなかったが、令和6年度は計画的に訪問し予定どおり実施できた。

④ 職場環境改善

ここ数年ワークライフバランスにより多様な働き方が増え、それに伴う企業の取組も求められるようになっていく。

法人全体の年次有給休暇の平均取得日数は12.3日となり、目標であった「10日以上」を達成した。令和2年度以降は平均取得日数10日以上が続いており、今後も取得しやすい環境を整える。

仕事と家庭の両立を図る一環として整備している「子の看護休暇」については、取得定着が進み、令和6年度は41人が取得した。来年度は「子の看護等休暇」と取得事由の範囲が広くなり、更なる周知を進める。「育児休業」については産後休業を取得した女性職員8名が全て取得しており、令和4年10月施行の「出生時育児休業(産後パパ育休)」についても、2人の男性職員が育児休業を取得し、対象者の取得率としては100%と、職場全体でワークライフバランスを後押ししている。

業務の効率化を進めるための「ICT機器」については、令和6年度も導入を進めた。一部自治体の補助金を活用しながら、介護施設や障害者施設においても見守り介護システム等を導入し、職員の業務負担を改善する一因となった。

令和7年度は職場環境改善が報酬における処遇改善加算取得の必須項目となるため、改めて職場環境改善についての周知を進めていく。

3 職員の状況

職 名	事務局長 (キャリア支援課長兼務)	次 長 (総務課長兼務)	総 務 課 事 務 員	キャリア支援課 事 務 員	計(人)
職員数	1	1	4	2	8

※理事長、専務理事、常務理事を除く。

4 事業の実施状況

(1) 評議員会

事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第13回評議員会 令和6年4月17日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員6人、理事6人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：監事1名の選任の件
第14回評議員会 令和6年6月20日	①場 所：県民福祉プラザ4階「多目的室4A」 ②出席者：評議員5人、理事6人、監事1人、その他7人 ③報告事項 報告第1号：令和5年度事業報告の件 報告第2号：令和5年度行政監査の結果の件 ④議決事項 議案第1号：定款の一部改正の承認の件 議案第2号：令和5年度計算書類及び財産目録の承認の件 議案第3号：理事1名の選任の件
第15回評議員会 令和6年12月3日	①場 所：県民福祉プラザ3階「共用研修室1」 ②出席者：評議員5人、理事6人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：役員等報酬規程の一部改正の承認の件
第16回評議員会 令和7年3月25日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員4人、理事6人、その他3人 ③報告事項 報告第1号：元職員との労働紛争について ④議決事項 議案第1号：理事1名の選任の件

(2) 理事会

事業団定款第23条～27条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第38回理事会 令和6年4月8日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事1人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：監事1名の選任（案）の件 議案第2号：第13回評議員会の招集（案）の件

第 39 回理事会 令和 6 年 5 月 30 日	①場 所：県民福祉プラザ 4 階「多目的室 4 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 9 人 ③報告事項 報告第 1 号：令和 5 年度苦情等受付・解決状況について 報告第 2 号：令和 5 年度行政監査の結果（未報告分）について ④議決事項 議案第 1 号：令和 5 年度第 6 次補正予算（理事長専決分）の件 議案第 2 号：令和 5 年度事業報告書（案）の件 議案第 3 号：令和 5 年度決算書（案）の件 議案第 4 号：令和 6 年度第 1 次補正予算（案）の件 議案第 5 号：定款の一部改正（案）の件 議案第 6 号：安生園建物の一部用途変更（案）の件 議案第 7 号：理事の改選（案）の件 議案第 8 号：評議員選任：解任委員の改選（案）の件 議案第 9 号：第 14 回評議員会の招集（案）の件
第 40 回理事会 令和 6 年 6 月 20 日	①場 所：県民福祉プラザ 4 階「多目的室 4 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 3 人 ③議決事項 議案第 1 号：業務執行理事の選任（案）の件
第 41 回理事会 令和 6 年 9 月 5 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 3 人 ③議決事項 議案第 1 号：令和 6 年度第 2 次補正予算（理事長専決分）の件 議案第 2 号：令和 6 年度第 3 次補正予算（理事長専決分）の件 議案第 3 号：令和 6 年度第 4 次補正予算（案）の件
第 42 回理事会 令和 6 年 11 月 8 日	①場 所：県民福祉プラザ 4 階「多目的室 4 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 1 人、その他 8 人 ③議決事項 議案第 1 号：令和 6 年度第 5 次補正予算（案）の件 議案第 2 号：準職員就業規則の一部改正（理事長専決分）の件 議案第 3 号：非常勤職員就業規則の一部改正（理事長専決分）の件 議案第 4 号：日々雇用職員就業規則の一部改正（理事長専決分）の件 議案第 5 号：職員給与規程の一部改正（理事長専決分）の件 議案第 6 号：役員等報酬規程の一部改正（案）の件 議案第 7 号：第 15 回評議員会の召集（案）の件
第 43 回理事会 令和 7 年 1 月 27 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「共用研修室 1」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 3 人 ③報告事項 報告第 1 号：元職員から当法人への提訴の件
第 44 回理事会 令和 7 年 3 月 12 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 9 人 ③報告事項 報告第 1 号：令和 6 年度行政監査の結果について 報告第 2 号：令和 6 年度福祉サービスの質の評価実績について

	報告第3号：労働紛争の経過について ④議決事項 議案第1号：令和6年度第6次補正予算(理事長専決)の件 議案第2号：令和6年度第7次補正予算(案)の件 議案第3号：年度開始前の契約準備(理事長専決)の件 議案第4号：令和7年度事業計画(案)の件 議案第5号：令和7年度当初予算(案)の件 議案第6号：定款細則の一部改正(理事長専決)の件 議案第7号：職員就業規則の一部改正(案)の件 議案第8号：職員給与規程の一部改正(案)の件 議案第9号：準職員就業規則の一部改正(案)の件 議案第10号：非常勤就業規則の一部改正(案)の件 議案第11号：県民福祉プラザ夜間事務補助員就業規則の一部改正(案)の件 議案第12号：世話人就業規則の一部改正(案)の件 議案第13号：専任当直員設置要領の一部改正(案)の件 議案第14号：経理規程の一部改正(案)の件 議案第15号：令和7年度役員等賠償責任保険契約(案)の件 議案第16号：施設長等人事(案)の件 議案第17号：理事の辞任(案)の件 議案第18号：理事の選任(案)の件 議案第19号：第16回評議員の召集(案)の件
--	---

(3) 各種監査・第三者評価

監査種別	実施日
①青森県すこやか福祉事業団監事事前出納監査	令和6年4月16日
②青森県すこやか福祉事業団監事監査(会計監査) 〃(業務監査)	令和6年5月9日 令和6年5月21日・22日
③青森県すこやか福祉事業団内部監査 ・プラザ内事業所(事務局・プラザ管理室・長寿・発達) ・八甲学園 ・安生園 ・すこやか苑 ・なつどまり ・就労サポートセンターさつき ・ライフサポートセンターあおば ・就労サポートセンターはくちょう ・青森障害者就業・生活支援センターすこやか	令和6年12月5日 令和6年11月12日 令和6年11月25日 令和6年11月20日 令和6年11月15・26日 令和6年11月22日、12月2日 令和6年11月19・27日、12月4日 令和6年11月28日 令和6年11月25日
④財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援 ・就労サポートセンターはくちょう ・就労サポートセンターさつき	令和6年11月12日 令和6年11月29日
⑤青森県東青地域県民局監査指導課による指導監査 ・八甲学園(施設入所) ・しらかば寮(施設入所、生活介護、短期入所)	令和7年1月8日 令和7年1月9日

・ さつき寮（施設入所、生活介護、短期入所）	令和 7 年 1 月 29 日
⑤青森市指導監査課による指導監査、実地指導 ・ ライフサポートあおば（キッズサポートあるふぁ） ・ 八甲学園（就労 B 型・生活介護・相談支援）	令和 6 年 11 月 5 日 令和 6 年 11 月 19 日・20 日

（４）法人内会議・委員会

会議名	内 容
①所属長会議 （５回開催）	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。
②総務担当者会議 （３回開催）	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。
③給与検討委員会 （４回開催）	最低賃金上昇に伴う職員給料表の見直しや、管理栄養士の給料表の見直し等について検討した。
④発達障害支援力強化事業検討委員会 （１回開催）	「発達障害支援力強化事業」を３事業所（しらかば寮、さつき寮、就労サポートセンターはくちょう）で実施し、職員の発達障害支援の資質向上に努めたほか、課題点について検討した。
⑤安生園施設整備検討委員会（１回開催）	安生園建物内に障害者就業・生活支援センターを移転することに伴う、安生園建物の整備や経費について検討した。
⑥監査委員会 （２回開催）	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的とした内部監査実施に向けて、内容を検討した。委員会形式のほか、分野別（処遇、経理）で勉強会を実施した。
⑦環境整備委員会 （都度実施）	各施設の所有地の環境整備や薪用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。

（５）職員の福利厚生

非正規職員（一部を除く）を含む全職員を対象としてソウェルクラブに加入（掛金事業主負担）し、福利厚生の充実を図った。

また、法人認定のクラブ活動に対する助成金支援制度や、資格取得者に対する奨励金支給制度を実施した。

（６）社会福祉事業団関連会議等

会議名	実施日	場 所	出席者
①ブロック事業団連絡協議会 事務局長会議	令和 6 年 7 月 8 日 ～9 日	山形県山形市 山形国際ホテル	1 人
②第 1 回ブロック事業団 連絡協議会	令和 6 年 7 月 25 日 ～26 日	秋田県秋田市 ホテルトリオ 秋田	2 人
③第 57 回全国社会福祉事業団 大会	令和 6 年 10 月 16 日 ～17 日	秋田県秋田市 あきた芸術劇場ミルハス他	3 人
④ブロック事業団年金代表者 会議	令和 7 年 1 月 29 日	県民福祉プラザ（オンライン）	2 人
⑤第 2 回ブロック事業団 連絡協議会	令和 7 年 2 月 20 日 ～21 日	北海道札幌市 札幌ガーデンパレス	2 人

5 研修の参加状況

(1) 外部研修

研修名	実施日	場 所	出席者
①甲種防火管理再講習	令和6年5月28日	消防合同庁舎	1人
②社会福祉法人運営の基本対策セミナー	令和6年6月7日	県民福祉プラザ	1人
③都道府県経営協セミナー	令和6年9月6日	ウェディングプラザアラスカ	1人
④第9回福祉新聞フォーラム	令和6年10月2日	東京ビッグサイト	2人
⑤青森県センター連絡会議	令和6年10月10日	青森合同庁舎	1人
⑥高年齢者雇用推進セミナー	令和6年10月17日	アピオあおもり	1人
⑦第93回青森県社会福祉大会	令和6年10月31日	リンクステーションホール青森	1人
⑧採用力向上セミナー	令和6年11月26日	青森県観光物産館アスパム	1人
⑨ブロック事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	令和6年12月13日	【開催担当県】 県民福祉プラザ	4人
⑩令和6年度処遇改善加算取得セミナー	令和6年12月16日	県民福祉プラザ(オンライン)	2人
⑪人材獲得力向上セミナー	令和7年1月31日	県民福祉プラザ	3人
⑫働く女性のキャリア継続推進セミナー	令和7年2月5日	青森県観光物産館アスパム	1人
⑬障害者雇用納付金制度事務説明会	令和7年2月17日	ポリテクセンター青森	2人
⑭決算法人説明会	令和7年3月18日	リンクステーションホール青森	1人

(2) 法人内研修

	実施日	時間	研修名	講師	人数
1	R6.4.9 (火)	9:00~12:30	新任職員研修 (第1回目)	理事長、専務、局長、町田所長	14人
2	R6.4.17 (水)	10:00~17:00	新任職員育成研修Ⅰ	セミナー東北 鎌田昌子氏	10人
3	R6.5.9 (木)	15:00~17:00	メンタルヘルス研修	医療法人芙蓉会 村上拓也氏	17人
4	R6.5.10 (金)	9:30~11:30	初級職員研修	セミナー東北 大竹辰也氏	17人
5	R6.5.24 (金)	9:00~12:00	初級支援職員研修	前中所長	11人
6	R6.5.28 (火)	14:00~17:00			7人
7	R6.6.3 (月)	14:00~15:00	キャリア面談事前研修	石岡百合子氏	19人
8	R6.6.5 (水)	10:00~11:00			7人
9	R6.6.6 (木)	13:30~14:30			2人
10	R6.6.12 (水)	9:30~11:45	ファシリテーター養成研修	セミナー東北 大竹辰也氏	11人
11	R6.6.19 (水)	9:30~12:00	2年目職員フォローアップ研修	局長、町田所長	11人
12	R6.7.2(火)	9:00~12:30	3年目職員レベルアップ研修	渋谷総務企画監	10人
13	R6.7.10(水)	9:30~11:30	管理職研修	セミナー東北 溝江隆仁氏	18人
14	R6.7.17(水)	9:00~12:30	新任職員研修 (第2回目)	理事長、専務、局長、町田所長	11人
15	R6.8.5 (月)	10:00~17:00	ビジネスマナー研修	セミナー東北 鎌田昌子氏	7人
16	R6.8.6 (火)	9:30~11:50	中級職員研修	セミナー東北 大竹辰也氏	10人
17	R6.8.21 (水)	9:30~11:50	上級職員研修	セミナー東北 大竹辰也氏	8人
18	R6.9.11 (水)	9:30~11:30	ハラスメント予防研修	セミナー東北 溝江隆仁氏	13人
19	R6.9.20 (金)	10:00~11:00	評価者研修 (オンライン)	局長	17人
20	R6.9.24 (火)	16:00~17:00	年金制度研修	局長	17人
21	R6.9.25 (水)	10:00~12:00	交通安全研修 (前期)	榊ムジコ・クリエイト 青森モータースクール講師	9人
22	R6.9.28 (土)	8:30~16:30	法人内実地研修		3人
23	R6.10.2 (水)	9:00~12:00	内定者研修Ⅰ	理事長、専務理事、事務局長	2人
24	R6.10.9 (水)	9:00~12:30	新任職員研修 (第3回目)	理事長、専務、局長、町田所長	7人
25	R6.10.10 (木)	9:30~11:30	利用者支援理解促進研修 (障害)	町田所長	11人
26	R6.11.13 (水)	10:00~11:00	交通安全研修 (後期)	青森県火災共済協同組合 青木 慶夫氏 打田 道史氏	10人
27	R6.11.15 (金)	9:30~11:00	個人情報保護研修	局長	15人
28	R6.11.19 (火)	15:00~17:00	虐待防止研修 (県民福祉プラザ)	青森大学 教授 船木昭夫氏	11人
29	R6.11.28 (木)	15:30~17:30	虐待防止研修 (なつどまり)		18人
30	R6.11.29 (金)	14:00~16:00	利用者支援理解促進研修 (高齢者)	高齢分野施設職員 棟方 由美子氏	11人
31	R7.1.27 (月)	9:00~12:30	新任職員研修 (第4回目)	理事長、専務、局長、町田所長	15人
32	R7.2.7 (金)	9:00~15:50	内定者研修Ⅰ・Ⅱ (講義)	理事長、専務、局長、三国主任事務員	13人
33	R7.2.8 (土)	8:30~16:00	内定者研修Ⅲ (施設見学)	キャリア支援課で見学対応	中止
34	R7.2.27 (木)	15:30~17:30	虐待防止研修追加 (なつどまり)	青森大学 教授 船木昭夫氏	12人
35	R7.2.28 (金)	15:00~17:00	新任職員育成研修Ⅳ	町田所長	2人

Ⅱ 県民福祉プラザ管理室

1 概 況

当県民福祉プラザの受託経営事業については、これまでと同様に円滑な貸館運営を実施し、自主事業においても事業内容を精査して実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 県民福祉プラザ受託経営事業（指定管理受託事業）の安定的な運営

令和6年度の管理運営にあたっては、「青森県県民福祉プラザ条例第一条」「県民福祉プラザの管理に関する基本協定書」にある設置目的を基に管理運営を行ってきた。

貸館業務については、利用者アンケートの回答や来館者の声を基に業務に反映させてきた。そのなかで、設備面については館内トイレの改修や貸出備品の更新・追加を行い、利用者の利便性向上を図った。

貸館予約については、今まで不要な仮押さえとキャンセルが多くあり、実際に使用したい方が利用できない状態にあった。そこで、予約方法とシステムの改修を行い、本申込提出期限が過ぎたものは自動キャンセルすることとした。その結果、本来必要としている利用者が申込みことができるようになり、貸館利用率の向上につながった。

令和6年度は、機械設備更新のため貸館を制限する期間があったが、予約システムを使用した申込手続の効率化と、新規使用者が増えたことにより、研修室利用者数は目標の3,000件を超えた。なお、研修室利用者数は目標に届かなかったが、前年度に比べ増加となった。

令和6年度利用者数（人）

	一般	社福	県	計
計	27,274	29,061	11,856	68,191

令和5年度 63,736

令和6年度利用件数（件）

	一般	社福	県	計
計	1,347	1,327	374	3,048

令和5年度 3,098

(2) 県民福祉プラザ自主事業の積極的な運営

いずれのイベントもプラザの設置目的に合致した内容で開催した。各教室についてはおおむね定員を満たしており新規の参加申し込みもあったことから、教室参加を機会に当館を知っていただくこととなった。

主に福祉事業所を対象にしたエントランスホール出店については、新規事業所の出店があり、販売品目が増えることで来館者の興味関心を引くきっかけにもなった。

また、事前にSNSや館内掲示にて告知を行うようになったことで、出店を目的に来館される方も増えたことで賑わいが創出された。

自主事業全体の収入は583千円の目標に対し、381千円にとどまった。

イベント名	日 程	延べ回数	延べ参加数	売 上
健康教室	令和6年5月16日から 12月5日まで	8回	88人	44,000円
エントランスホール出店	令和6年5月18日から 令和7年3月4日まで	22回	37事業所	36,500円
作品展	令和6年10月1日から 10月31日まで	1回	21作品	
親子ものづくり教室	令和6年5月20日から 令和7年1月25日まで	4回	33組	36,000円

ヨガ教室	令和6年9月5日から 11月28日まで	13回	125人	125,000円
県民福祉プラザ将棋まつり	令和7年1月11日	1回	74人	139,500円

(3) 福祉機器展示コーナーの充実と活用

2階モデルハウスコーナー及び福祉機器展示コーナーを対象とし、学校の校外学習や、地域団体の勉強会などの見学があり、年間で8件76人の見学案内を受け入れた。

3 職員の状況

職 名	事務員	夜間補助員	計 (人)
職員数	6	2	8

4 研修の参加状況

研 修 名	期 日	場 所	参加者数
初級職員研修 (法人内研修)	令和6年5月10日	県民福祉プラザ	1人
新任職員研修 (法人内研修)	令和6年7月17日	県民福祉プラザ	1人
廃棄物処理法説明会及びごみ 減量・リサイクル推進講習会	令和6年7月17日	リンクステーションホール青森	1人
ビジネスマナー研修 (法人内研修)	令和6年8月5日	県民福祉プラザ	1人
ハラスメント予防研修 (法人内研修)	令和6年9月11日	県民福祉プラザ	1人
年金制度研修 (法人内研修)	令和6年9月24日	県民福祉プラザ	1人

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概 況

八甲学園の運営にあたっては、令和6年度においても基本理念のもと、利用者の人権の尊重、利用者の有する能力に応じ、健やかな成長ができるよう、また、地域社会の一員として日常生活や社会生活が営むことができるよう、利用者や家族等の思いに寄り添い、利用者、家族、地域社会から信頼される施設運営を実施してきた。

児童入所支援としては、今後の在り方や方向性をより安定的なものとするため、現状の定員10人の定着を図るよう事業運営をした。

就労継続支援B型事業においては、新たに八甲学園厨房を活用した「給食班」を設置し、利用者の要望にできる限り沿う対応に努めながら園内の事業所及びグループホーム等への食事提供を行い、事業運営を軌道に乗せることができた。

また、その他、生活介護事業、相談支援事業、共同生活援助事業においても安定的な事業運営を行った。

併せて、多様化する地域住民の福祉ニーズの把握や学校、関係機関・団体との連携に努めながら、通所事業、共同生活援助事業における利用者獲得や利用率アップ等に努め、建物の老朽化も含めた八甲学園全体のあり方や方向性を検討した。

また、働きやすい職場づくりの取組として、年次有給休暇の促進や時間外労働の削減、管理職やエルダーとの面談を含め、職場での話しやすい環境づくりに取り組み、職員のメンタル不調の早期発見・早期対応や、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備に努めた。

感染症等予防の取組としては引き続き対策を講じながら、地域や関係機関と連携し、より良質な福祉サービスの提供、地域のセーフティネットとしての役割を果たせるよう事業運営に取り組んだ。

2 職員の状況

		園長	企画監 課長	主任	副主任	支援員	看護師	栄養士	事務員	世話人	調理員	運転員 当直員	合計
園長		1											1
総務課			1				1	1	4			4	11
こども 支援課	入所		1		2	7							10
地域支援 第一課	生活		1		4	11	1						17
	相談			1	1								2
地域支援 第二課	就労		(1)		2	8					2		12
	GH			1	1	8				16 (1)			26
合 計		1	3	2	10	34	2	1	4	16	2	4	79

※支援第二課課長の（ ）は支援第一課課長が兼務

※GH世話人のうち（ ）内は生活介護兼務の人数。

※嘱託医及び嘱託職員は含まない。

3 職員研修

年間研修計画（法人内の階層別研修等や施設内外の研修、「サポーターズカレッジ」研修等）に基づいた研修を実施し、職員全体の資質向上及び専門的知識と支援技術の獲得を図った。

また、利用者の人権・生命を守るために、虐待防止、権利擁護、コンプライアンス、リスクマネジメント等に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

4 行 事

年間行事

月	全体	こども支援課	地域支援第一課	地域支援第二課
4	・全体会議	・全体会議 ・歓迎会	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 ・事業所大掃除（生介） ・アニマルセラピー（生介）	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 （B型・グループホーム）
5	・横内清掃ボランティア ・苦情解決協議会	・横内清掃ボランティア	・横内清掃ボランティア ・アニマルセラピー（生介）	・横内清掃ボランティア ・あおりグループホーム 連絡協議会総会
6	・大掃除 ・地域交流懇談会	・大掃除ウィーク（2週間） ・掃除お疲れ会 ・前期総合防災訓練	・アニマルセラピー（生介）	・大掃除（B型） ・避難訓練（グループホーム） ・桂木町会交流会（グループホーム）
7	・夜間総合消防訓練 （地域防災協力隊参加） ・なつまつり	・なつまつり ・夏休み行事	・なつまつり	・なつまつり （B型・グループホーム） ・桂木町会夏祭り（グループホーム）
8		・夏休み行事 ・移行施設見学（ドライブ）	・青森県障害者スポーツ 大会陸上競技（生介）	
9		・かかしロード（ドライブ） ・月見会 ・カラオケ外出 ・花火大会 ・バーベキュー大会	・青森県障害者スポーツ 大会ボウリング競技（生介）	・収穫祭（B型）
10		・新人職員歓迎会 ・ハロウィンパーティー	・事業所大掃除（生介） ・避難訓練（生介） ・アニマルセラピー（生介）	・避難訓練（グループホーム） ・桂木町会交流会（グループホーム）
11	・BCP机上訓練（地震想定） ・土砂災害等防災訓練	・BCP机上訓練（地震想定） ・ありのまま表現展見学 ・土砂災害等防災訓練 ・大掃除	・BCP机上訓練（地震想定） ・アニマルセラピー（生介） ・土砂災害等防災訓練	・BCP机上訓練（地震想定） ・土砂災害等防災訓練（B型）
12	・大掃除 ・合同研究発表会	・大掃除 ・クリスマス会 ・年越し会 ・冬休み行事	・忘年会（生介） ・育成会クリスマス大会（生介）	・大掃除（B型） ・忘年会（B型）
1		・冬休み行事 ・ジブリ展見学	・アニマルセラピー（生介）	
2	・後期総合消防訓練	・後期総合消防訓練 ・節分豆まき会 ・県立美術館見学	・後期総合消防訓練 ・アニマルセラピー（生介）	・後期総合消防訓練

3	・苦情解決協議会 ・BCP机上訓練（感染症想定）	・卒業を祝う会 ・BCP机上訓練（感染症想定）	・慰労会（生介） ・BCP机上訓練（感染症想定） ・アニマルセラピー（生介）	・慰労会(B型) ・BCP机上訓練（感染症想定）
園 共 通 行 事 等	防災訓練	12回/年	①避難訓練（火災想定） ②地域交流懇談会 ③総合消防訓練（前期：70人） ④総合消防訓練（後期：82人） ⑤非常通報訓練（前期） ⑥非常通報訓練（後期）	
		1回/年	①土砂災害等防災実地訓練（33人） ②土砂災害等防災机上訓練（18人） ③BCP災害（土砂災害）机上訓練 ④BCP感染症机上訓練	
	研修	随時	①職場内研修・研究発表 ②法人内研修（園内研修含む） ③法人外県内研修 ④法人外県外研修（主にオンライン研修） ⑤サポーターズカレッジ研修	
	広報活動	3回/年	①学園だより ②ホームページ ③リーフレット	
	ボランティア	—	なつまつり 10人	
	実習受け入れ	随時	専門学校1、短大2、大学4、計7校（実数16人）	

5 健康管理

- （1）感染症の予防対策として、インフルエンザワクチン予防接種を実施するとともに、マスクの着用、手指消毒、手洗いうがいの励行を徹底し、行政通知やマニュアル等に沿い迅速な対応で新型コロナウイルス感染症を含む感染症の感染防止に努めた。
- （2）入所児童については、体位測定（月1回）や健康診断（内科：年2回、歯科：年2回等）を定期的実施し、健康状態の的確な把握に努めた。
- （3）嘱託医、学校、家庭、グループホーム等との連携を強化するとともに、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

6 安全・防災管理

利用者が安全で安心した快適な生活が送れるよう防災・安全管理対策として、次の事項を実施した。

- （1）年2回の総合消防訓練、月1回の防災避難訓練、年1回のBCP机上訓練（感染症対策、土砂災害等を一部含む防災訓練）、BCP実施訓練（感染症対策、土砂災害等訓練を一部含む）を実施した。また、グループホームは年2回の火災・風水害を想定した訓練を実施した。
- （2）月1回園内リスクマネジメント委員会を開催した。
- （3）防災担当者による自主点検及び法定点検を実施した。
- （4）地域住民（八甲学園地域防災協力隊）の協力による夜間避難訓練（前期総合消防訓練）を実施し、地域住民との連携に努めた。

7 ボランティア・実習生の受入れ

- （1）ボランティアの受入れについては、感染症等予防対策を徹底しながら、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化とともに、福祉の担い手の育成を目指した

取組であることから、八甲学園なつまつりにおいては学生ボランティア 10 人の受入れを実施した。

また、青森市社会福祉協議会等関係機関との連携に継続して努めた。

- (2) 実習生の受入れに当たっては、次代の施設職員を養成するという視点に立ち、人材育成の一助になるよう真摯な対応に努めた。

8 地域との連携

- (1) 地域に開かれた施設として、地域住民と継続的な連携を図っていくため「地域交流懇談会」を開催し、可能な限り地域貢献と地域交流促進に努めた。また、障害者に対する理解と社会参加を促進するとともに、共生・共助の地域づくりの推進に努めた。
- (2) 青森市との「福祉避難所の確保に関する協定」について、協定を継続した。
- (3) グループホーム利用者のうち、障害年金受給前などの理由により一定期間経済的支援が必要な方への負担軽減等の実施の対象者はいなかった。

I こども支援課

【児童入所支援】

1 概 況

入所支援においては、令和3年度より定員を10人とした。定員は削減したものの地域の社会資源として、地域や関係機関・団体との連携、良質な福祉サービスの提供を継続して行ったほか、一時保護の体制を維持し、地域のセーフティネットとしての役割を果たした。

2 重点事項の実施状況

- (1) 安定した経営基盤の強化
年度開始当初から5月までに新規児童3人を受入れた。児相等関係機関と連携しながら高等部卒業児童2人の成人施設サービスへの移行を計画的に行った。一部移行期間等を除き、定員10人の利用率100%を維持し、安定した経営基盤に繋げた。
- (2) 利用者主体の統一した支援
個々の入所児童に対して、全職員が個別支援計画や支援マニュアルに沿った利用者主体の統一した支援に努めた。
- (3) 感染症予防・感染拡大防止の再徹底
コロナ禍の状況を鑑み、適宜マニュアルの見直しを図りながら、感染症対策委員会の方針に沿った対応策を実施し、感染症予防・感染拡大防止を徹底した。

3 事業の実施状況

(1) 福祉型障害児入所施設

① 定 員

10人

② 概 要

学校や関係機関と連携しながら、入所児童の健全な成長・発達を目指した生活支援を行うとともに、将来の生活に必要な身辺自立及び社会自立に向けた支援、移行支援を実施した。また、強度行動障害児童へは指導訓練を、被虐待児童へは心理ケアと心理療法等を実施した。

③ 支援目標

- ア 児童の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援した。
- イ 児童の発達段階・状況に応じ、日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けた支援を行った。
- ウ 児童が安全に安心して心豊かに暮らせるよう、家庭的な生活環境を整備し、児童の健康管理に留意した。特に衛生面については、徹底して取り組んだ。
- エ 児童のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。
- オ 個々の児童の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、学校、医療及び関係機関との連携を図りながら必要な支援を行った。
- カ 強度行動障害と判定された児童に対しては、医師や看護師、心理士等とも連携し、専門的な統一した支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の人材育成、技術習得をもとに支援の定着化を図った。
- キ 被虐待児童への心理的ケアと支援の充実を図るため、当該児童に心理療法（心理検査、プレイセラピー、SST等）を実施した。
- ク 地域交流を交えつつ地域の社会資源を活用し、個々に応じた自立生活ができるよう社会性の向上と社会参加の促進を図った。社会体験等については計画に基づき実施し、児童から要望のあった行事等については、必要に応じて検討した。

(2) 短期入所事業（空床型）

① 定員

空床数による。

② 概要

要予約とし、障害児・者を介護されている家族の方が、病気、出産、冠婚葬祭、行事等の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、欠員及び入所児童の帰宅等により空いた居室を利用し、宿泊を伴う生活支援を提供するものである。令和6年度においては、空床がなく、実績はなかった。

③ 支援目標

- ア 短期入所を利用された際に、障害児・者が安全に、安心して過ごすことができるよう環境を設定し、健康状態に配慮する。
- イ 家族の要望に対し、可能な限り添えるよう、関係機関等と連携しながら、相談・問い合わせがあった際には丁寧な説明を行う。

(3) 事業実施状況

項目	実施時期・回数	内容
生活支援	4月5日 6月13日～7月12日 7月26日 7月30日 8月2日 8月5日 8月8日 8月15日 8月21日 8月22日	①行事 ・歓迎会 ・大掃除ウィーク ・模擬駄菓子屋買い物 ・ねぶた小屋見学外出 ・スイカ割り大会 ・流しそうめん大会 ・夏休み全体外出（浪岡方面） ・なつどまり見学 ・調理イベント（ミニパフェ） ・カラオケ外出

	9月14日 9月23日 9月27日 9月29日 10月5日 10月31日 11月13日～12月17日 12月8日 12月22日 12月29日 12月31日 1月10日、12日 1月12日 2月4日 3月10日	・全体外出（かかしロード） ・カラオケ外出 ・花火大会 ・秋期バーベキュー大会 ・新入職員歓迎会 ・ハロウィンパーティー ・冬の大掃除ウィーク ・手をつなぐ育成会クリスマス大会 ・クリスマス会 ・冬の大掃除お疲れ会 ・大晦日年越し会 ・買い物外出 ・新年会 ・節分豆まき会 ・さようなら会
学卒児支援	年 間	①園外活動：歩行訓練・作業活動 ②園内活動：身辺自立・清掃
就労支援	随 時	①学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導
強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 2回/月/2人	・スタッフ会議 ・対象児2人にプレイセラピーを実施
健康管理	随 時 24回 2回 12回 0回 1回 2回 1回	①通院 ②精神科嘱託医の検診 ③内科嘱託医の検診 ④身長体重測定 ⑤フッ素塗布（中止） ⑥眼科検診 ⑦歯科検診 ⑧定期健康診断

Ⅱ 地域支援第一課

【生活介護事業所はっこう】

1 概 況

生活介護事業所では、精神疾患、身体障害、自閉スペクトラム症、強度行動障害の利用者の障害特性に応じ、本人にとってわかりやすく生活しやすい環境設定を行うとともに、自信を持って取り組める日中活動の提供・身体機能の向上に向けた支援を行った。

2 重点事項の実施状況

（1）安定した経営基盤の強化

障害特性やニーズに合わせた活動グループで、様々なニーズに応じられる環境調整に努め、契約利用者1人増、年間平均利用率114%、令和5年度年間総収入比約13%増といずれも目標を達成した。

（2）利用者主体の支援と支援の質の向上

利用者一人ひとりの特性に合わせた活動プログラムと個別化された支援を提供し、利用者主体の支援を行った。また、利用者の障害特性に合わせた高い支援技術が必要であるため、専門研修や e-ラーニングを積極的に活用し、職員の専門的知識の習得とスキルアップを図り、支援の質の向上に努めた。

(3) 関係機関との連携強化

相談支援事業所への P R 活動や特別支援学校（第二養護学校・第一高等養護学校）との連携は継続した。産業現場実習生の受け入れは今年度無かったが、特別支援学校からの保護者見学会を受け入れ、将来的に利用に繋がるような土台作りを強化し、契約利用者数の維持を図った。

3 事業の実施状況

(1) 定 員

20 人

(2) 概 要

主に障害支援区分 5 以上の障害の重い方・発達障害の方を対象に、日中活動の提供、日常生活スキルの向上に必要な機能訓練を実施した。

また、環境や活動内容を工夫し利用者の持っているスキルを活かした生産活動、請負作業を行うほか、創作・余暇・運動・レクリエーションの活動プログラムを組み日中活動の充実を図った。

(3) 支援目標

- ① 利用者の障害特性に合わせた環境設定を行い、柔軟で自立的な活動ができるような視覚的支援、コミュニケーション支援を行った。
- ② 利用者一人ひとりの身体機能や障害特性、個別のニーズ等に基づいた個別支援計画を立案・実施し、本人が達成感と成功体験を積み重ねられるように取り組んだ。
- ③ 軽作業（リサイクル、法人内のリサイクル紙回収作業等）を実施し、日中活動の充実を図った。
- ④ 毎月、創作活動・調理・音楽やダンス・ゲーム活動・園外活動等の様々なレクリエーション活動を実施し、余暇と地域活動の充実を図った。アニマルセラピーについては、コロナ禍以前の水準に戻り、年間 8 回実施をすることができた。
- ⑤ 利用者のサービスを円滑に行うために関係機関、家庭との連携を深めた。また、園内他事業所、事業団発達障害支援力強化検討委員会等と連携し、機能を活用しながら取り組んだ。

(4) 行事及び事業実施状況

① 利用者の状況

ア 定 員 20 人

イ 契約者数 29 人

ウ 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20 人	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
契約者 数(人)	28	28	28	28	28	28	28	29	29	29	29	29	
開所日 数(日)	21	22	22	23	20	20	22	21	21	19	18	19	248
延べ利用 人数(人)	490	501	483	543	425	447	514	504	488	438	408	459	5,700

② レクリエーション活動（回数）

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
創作	0	1	2	2	1	2	0	1	2	1	1	3	16
調理	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	25
音楽・ダンス	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	2	0	10
ゲーム	2	0	1	2	1	1	2	0	1	1	1	0	12

③ 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（野木和公園）、Cグループ：園外外出（弘前公園）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
5月	5	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（野木和公園）、Bグループ：園外外出（芦野公園）、Cグループ：園外外出（猿賀神社）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
6月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Cグループ：園外外出（十和田湖）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
7月	5	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（かやの茶屋）、Bグループ：園外外出（岩木山神社）、Cグループ：園外外出（八戸市内）、A、B、Cグループ：（八甲学園なつまつり）
8月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（かやの茶屋）、Cグループ：園外外出（深浦千畳敷）、
9月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Bグループ：園外外出（つがる地球村）、Cグループ：園外外出（高山稲荷神社）
10月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（ナミキ）Cグループ：園外外出（中野もみじ山）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
11月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Bグループ：園外外出（なつどまり）、Cグループ：園外外出（浅虫水族館）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
12月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、A、Cグループ忘年会（園内で開催）、Bグループ忘年会（焼肉いわや）、青森市手をつなぐ育成会クリスマス大会、
1月	3	Aグループ：園外外出（善知鳥神社）、Cグループ：園外外出（諏訪神社）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
2月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Cグループ：園外外出（ラウンドワン）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー
3月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、A・Bグループ：慰労会（園内で開催）、Cグループ：慰労会（やまなか家）、A・B・Cグループ：アニマルセラピー

④ 職員研修関係

法人内研修を初め、法人契約した「サポーターズ・カレッジ」研修及び専門分野研修に多数の職員が受講し、専門的な知識や支援スキルの維持と向上に努めた。

⑤ 広報関係

パンフレットを市内相談支援事業所及び関係機関等を訪問し、事業所PRや新規利用者の利用促進に努めた。

【相談支援事業所あおば】（指定特定相談支援、障害児相談支援）

1 概 況

利用者やご家族がおかれている環境やニーズ等に応じた障害福祉サービス等をご利用いただくために、総合的な相談支援を行った。また、多様なニーズに応える包括的なサービス等利用計画を立てるために、地域の社会資源の開発を図り、行政や関係機関等と連携を図った。

2 重点事項の実施状況

（1）安定した経営基盤の強化

効果的かつ効率的な安定運営のため、計画相談と障害児相談の契約者の比率を4：1で契約者数約200人を維持した。また、医療機関等との多機関連携を推進し、「集中支援加算」や「医療・保育・教育機関等連携加算」の取得に繋げることで、収支改善を図った。

（2）質の高い相談支援の提供

丁寧な相談支援を実施するため、専門研修へ参加することで資質の向上を図り、事業所内でも伝達研修を定期的実施した。また、令和7年1月から主任相談支援専門員を配置し、青森市の圏域会議等への参加や市内の相談支援事業所とも連携し、地域の相談支援体制を強化した。

3 事業の実施状況

（1）概 要

① 障害者や障害児等が障害福祉サービスや障害児通所支援（児童発達支援や放課後等デイサービス等）を利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援を行った。

② 障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言を行った。

（2）支援目標

① 利用者の人権尊重を基本とし、利用者やご家族の意向や選択を尊重しながら、利用者一人ひとりの能力、適性、ニーズ等に基づいたサービス等利用計画の作成を行った。

② 利用者やご家族が地域で安心して生活するために、権利擁護及び社会資源を活用するための助言、情報提供等の支援を行った。

③ 地域又は関係機関との信頼関係を深め、連携を密に行った。

④ 圏域会議や市の連絡会議への参加を通じてネットワークの構築を強化し、相談支援専門員として情報の共有に努めた。

⑤ 研修等への積極的な参加と自己研鑽に努め、相談支援専門員の資質向上に努めた。

(3) 利用状況及び事業の実施状況

事業名	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
① 指定特定相談支援事業	152 件	148 件	372 件
② 障害児相談支援事業	46 件	51 件	94 件

(4) 職員研修関係

- ① 青森市相談支援事業所連絡会議及び圏域会議、青森市地域相談支援連絡会（主催：青森市）に参加し、行政、他相談支援事業所や地域の関係機関との連携を図ることと相談支援業務に必要な情報収集を目的に参加した。

(ア) 青森市相談支援事業所連絡会議

期 日	場 所
－	未開催

(イ) 圏域会議

期 日	場 所
令和 6 年 4 月 18 日	横内市民センター
令和 6 年 5 月 23 日	じょいん
令和 6 年 6 月 20 日	じょいん
令和 6 年 7 月 18 日	不参加
令和 6 年 8 月 22 日	じょいん
令和 6 年 9 月 19 日	じょいん
令和 6 年 10 月 17 日	じょいん
令和 6 年 11 月 21 日	横内市民センター
令和 6 年 12 月 19 日	横内市民センター
令和 7 年 1 月 16 日	横内市民センター
令和 7 年 2 月 20 日	横内市民センター
令和 7 年 3 月 19 日	横内市民センター

(ウ) 青森市地域相談支援連絡会

期 日	場 所
令和 6 年 7 月 31 日	青森県立図書館 不参加
令和 6 年 12 月 24 日	青森県立図書館
令和 7 年 2 月 3 日	青森県立図書館

- ② 法人内研修や県内外の各種研修を受講し、相談支援業務のスキル向上に繋げた。研修は対面及びオンラインやオンデマンド配信を積極的に活用し、受講した。

Ⅲ 地域支援第二課

【就労継続支援B型事業所はっこう】

1 概 況

就労継続支援B型では、より魅力ある、選ばれる職場環境を整備し、個々の利用者の働く力に主眼をおいた支援を行うとともに、工賃向上のため、効率的かつ安定的な事業運営を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した経営基盤の強化

安定した経営基盤の強化のため、新規利用者2人の獲得と、109%の高い利用率の維持に努めた。

(2) 利用者主体の支援と魅力ある事業所作り

利用者個々の意向を尊重した支援の質の向上、工賃の向上、開所日の充実を図ったことにより、利用者主体の支援を行いながら、利用者にとって魅力ある事業所作りに努めた。

(3) 作業班の体制整備

給食班を設置し、八甲学園厨房を使用して園内全事業所への給食提供を実施した。今年度は、その運営を軌道に乗せ、次年度以降の安定的な継続に繋がられるよう各種課題に取り組んだ。また、他の作業班においても、作業のやりがいの充実と作業環境の改善について随時検討しながら対応した。

3 事業の実施状況

(1) 定 員

20人

(2) 概 要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。余暇支援の面でも、利用者のニーズに応じた様々な活動を企画し、利用者が参加しやすい環境を整えながら実施した。

(3) 支援目標

- ① 利用者一人ひとりのニーズに即した支援計画に基づき、強みを伸ばし、働く喜びを実感できる支援を行った。
- ② 安全・快適に作業ができる環境を提供した。
- ③ 開所日については、作業はもとより、利用者の各種スキルの向上と社会参加の促進を図った。
- ④ 地域や関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりに貢献するよう努めた。また、事業所の機能を活かし、園内他事業所に作業見学、体験等の機会を提供し連携した。

(4) 生産活動の状況

① リサイクル班

青森市内の企業等及び合子沢町会、北蚩沢町会へ空缶やペットボトルの回収作業を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量の維持・向上に努めた。また、地域との連携の一環として、北蚩沢町会の回収ボックスの洗浄(年2回)や、ボランティア団体『夢クラブ八甲田』の参画団体としてペットボトルキャップリサイクル活動に取り組み、横内連合町会(10町会)での回収を実施した。

② 請負・農産班

請負部門は、清掃、外部受注の作業を行った。清掃作業は八甲学園内の清掃を請け負い、毎日の園内清掃に従事した。また、青森市パークメンテから受注した4か

所（平和公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園）の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザの植栽管理と雪囲い、市内 10 か所のグループホームの除排雪の他、新規作業としてあおもり藍の選定作業を実施した。

農産部門は、畑作業で野菜等の栽培と販売をするとともに、給食班の給食事業の原材料としても提供した。また、県からの委託事業である「農福連携マルシェ」をサンロード青森で 9 月に 1 日と 11 月に 2 日間の計 3 日間開催した。

③ 給食班

八甲学園厨房を使用した、園内全事業所へ 1 日約 130 食の給食提供を行った。また、メニュー・味・量等についての様々な意見をアンケート方式により把握し、より良い食事内容の提供に努めた。利用者については、補助作業（調理・配膳を除く清掃等）を行った。

(5) 事業実施状況

① 利用者の状況

区 分	定員 20 (人)
令和 6 年度開始時利用者数	25(男 19・女 6)
令和 6 年度終了時利用者数	26(男 20・女 6)

② 各班の売り上げ状況

作業班	売上(円)
リサイクル班	14,721,177
請負・農産班	3,097,708
給食班	21,082,120
計	38,901,005

③ 工賃支給状況

区 分	金額(円)
1 人あたり平均月額工賃	20,163

④ 行事等

月	レクリエーション (○開所日・●行事)	その他 (地域交流等)
4 月		
5 月		○横内合同清掃
6 月	○メッセージカード作り体験 ●大掃除	
7 月	○八甲学園夏まつり	
8 月	○カラオケ合衆国	
9 月	○あおもりシニアフェスティバル（県民福祉プラザ） ○農福マルシェ（サンロード青森） ●収穫祭 ○公用車清掃及びかやの茶屋ドライブ	
10 月	○学園清掃及び映画鑑賞	
11 月	○農福マルシェ（サンロード青森）及び 買い物ツアー	
12 月	○クリスマス大会	

	●忘年会（龍鳳閣） ●大掃除	
1月	○初詣（諏訪神社）及び除雪作業	
2月	○映画鑑賞	
3月	○カラオケ、ゲーム大会及び学園清掃 ●慰労会（スタミナ太郎）	

⑤ 職員研修関係

法人内研修への参加と、外部開催の研修（オンライン研修を含む）への参加機会も持った他、業務に必要な免許や資格の取得向上に努めた。

⑥ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、パンフレットを作成し、見学者や実習生等に配布した。

【共同生活援助事業所サンハウス】

1 概 況

共同生活援助事業所では、利用する入居者が社会の一員として自立した生活を送ることができるよう、社会資源の活用や地域の協力を得ながら支援を行った。

2 重点事項の実施状況

（1）安定した経営基盤の強化

安定した経営基盤の強化のため、入居率 100%を維持し、支援や環境のさらなる充実により利用者の定着を図った。また、支援体制の強化と重度障害者支援加算を取得し収入増加を図った。夜勤配置がないグループホーム 8 棟のうちの 1 棟について、夜勤配置体制（夜勤を行う夜間支援従事者を配置）への変更が可能かどうかを含め、様々な運営方法を検討した。

（2）利用者主体の支援

利用者の就労先（一般就労）、日中活動先、相談支援事業所等関係機関へ定期的な訪問・連絡を行い、町内会等地域との交流を深める体制を作り、連携強化に取り組むことで、地域で利用者が主体的に生活するための支援を行った。

（3）災害対策、感染症対策の強化

コロナ禍の状況を鑑み、災害、感染症が実際に発生した際の動きがより円滑にできるよう、各種訓練等の実施と、その結果を踏まえた B C P 及び各種マニュアルの見直しに取り組んだ。また、地域と連携した災害対策についても検討した。

（4）サンハウスの移転

緑地区のサンハウスについて、物件貸主の都合により転居を求められていたが、令和 6 年 5 月末をもって桂木地区の新物件への転居を完了した。

3 事業の実施状況

（1）定 員

55 人

（2）概 要

利用者が地域で自立し充実した生活を送ることができるよう、ニーズを的確に把握し、個別支援計画に基づいて支援員・世話人が共通認識を持ちながら、相談、食事の提供や金銭管理、健康管理、その他の必要な日常生活上の支援の提供に努めた。

（3）支援目標

- ① 利用者の主体性を尊重し、意思やニーズに応じたサービスを提供した。
- ② 利用者が地域社会の一員として安心して生活できるよう、就労先や日中活動の場、相談支援事業所、市町村等の各種関係機関と連携し支援した。
- ③ 利用者の心身の状態を通院状況や健診結果等から把握し、医療機関等との連携に努め、健康管理に配慮した。
- ④ 食事提供において、栄養士監修によるバランスの取れたメニューの提供を行い、各グループホーム間のサービスの質の平準化と利用者の食事に対する満足度の向上を図った。
- ⑤ 火災・地震・風水害を想定した防災訓練、事業継続計画に基づく訓練により、各種災害への意識を高め、安全対策に取り組んだ。
- ⑥ 感染症対策について啓発を行うことで利用者の協力を得ながら、発生予防、拡大防止に取り組んだ。
- ⑦ 利用者の会「はっぴい」やあおもりグループホーム連絡協議会等の活動を通じて余暇活動の充実を図ることを目標としたが、感染拡大防止の観点から、令和4年度に引き続き大人数での活動は限定的であった。
- ⑧ 見学・体験利用の受入れを積極的に行い、希望者に対し情報提供を行った。
- ⑨ 各グループホームの環境整備及び修繕を随時行い、住環境の向上に努めた。

(4) 事業実施状況

① グループホームの設置状況

名称(地区)	設置年月日	定員(人)
① サンハウス(桂木)	平成5年4月1日(令和6年6月1日)	7
② 第二サンハウス(蛍沢)	平成6年 4月1日	5
③ 第三サンハウス(新城)	平成8年 4月1日	5
④ 第五サンハウス(幸畑)	平成12年10月1日	6
⑤ 第六サンハウス(桂木)	令和3年 4月1日	5
⑥ 旭ハウス(大野)	平成21年 4月1日	5
⑦ 第二とうとうハイム(筒井)	平成22年 4月1日	5
⑧ おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	7
⑨ 紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩ 第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合 計		55

② 利用者の状況

内 容	人数【定員55人】
令和6年度当初利用者数	55(男42・女13)
令和6年度内の利用終了者数	0(男0・女0)
令和6年度内の利用開始者数	0(男0・女0)
令和6年度末の利用者数	55(男42・女13)

③ 行事等

月	内 容
5 月	・ 新城町会清掃ボランティア 第三サンハウス、紅葉ハウス、第二紅葉ハウス
6 月	・ 避難訓練（火災）全グループホーム ・ 桂木町会交流会 第六サンハウス
7 月	・ 桂木町会夏祭り 第六サンハウス
10 月	・ 桂木町会交流会 第六サンハウス ・ 避難訓練（風水害）全グループホーム ・ 避難訓練（洪水）サンハウス ・ B C P 訓練（ヘルプコール）第三サンハウス、紅葉ハウス、第二紅葉ハウス
11 月	・ 北蛸沢町会清掃ボランティア 第二サンハウス

④ 職員研修関係

法人内研修への参加の他、外部開催の研修（オンライン研修を含む）への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。世話人会議での研修実施や伝達研修も行った。

⑤ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、各グループホームの写真等を掲載したパンフレットを作成し、見学者や関係機関及び団体等に配布して事業所の P R に努めた。

第3 養護老人ホーム安生園

1 概 況

安生園の運営にあたっては、令和6年度においても各種法令及び当事業団職員倫理綱領を遵守するとともに、法人理念及び安生園の基本理念・基本方針に基づいて、常に利用者一人ひとりの意思と人格を尊重し、安心して充実した暮らし（生活）が続けられる生活支援と介護サービスの提供にあたってきた。また、安心できる生活環境を提供するため、建物の老朽化に伴う設備等の修繕と利用者の居住環境整備、感染症予防対策に継続して取り組んできた。

人材不足が深刻化する中、福祉への理解や魅力を発信するため、養成校等の社会福祉士・介護福祉士資格取得に向けた実習受入れを、感染症予防対策を講じた上で実施し育成を図った。

安生園が関連する市町村・地域包括支援センター・医療機関等との連携を密にし、新規利用者獲得に向けた情報発信等を図った。併せて措置入所については、今後の方向性を検討し、令和6年度の定員を令和5年度の100人から80人に縮小して事業運営した。

2 職員の状況

	園長	推進監	課長	主任	副主任	支援員	看護師	栄養士	事務員	訪問介護員	当直員	業務補助員	合計
園長	1												1
総務課		1			2		1	1	2		3	1	10
高齢者支援課			1	1	1	7							10
ヘルパーステーション					1	3				4			8
居宅介護支援センター			1			2							3
合 計	1	1	2	1	4	12	2	1	2	4	3	1	32

※1 総務課副主任は看護師と看護師

※2 嘱託医を除く

3 職員研修

年間研修計画（法人内研修や施設内外の研修）に基づいた研修を実施し、職員の資質向上と専門的知識や支援・介護技術の取得を図った。

また、利用者の人権・生命を守るために、高齢者虐待及び人権擁護に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

4 行 事

（1）年間行事

月	各種行事	所 属
4 月	自治会総会（転入・新任职員紹介） 観桜会	安生園・ヘルパー・居宅 安生園
5 月	三内霊園墓清掃 園庭整備 虹ヶ丘町会交流（街路花植え町会主催）	安生園 安生園 安生園
6 月	地域交流懇談会	安生園

	地域老人クラブ交歓輪投げ大会	安生園
7月	地域防災協力隊合同夜間防災訓練 納涼夏祭り 園庭整備	安生園 安生園・居宅 安生園
8月	お盆墓参	安生園
9月	敬老会 風水害等防災訓練・炊出し訓練（ＢＣＰ訓練含む）	安生園 安生園・ヘルパー・居宅
10月	輪投げ大会 三内霊園墓清掃 虹ヶ丘町会交流（清掃等町会主催）	安生園 安生園 安生園
11月	文化祭 ＢＣＰ訓練（感染症等）	安生園 安生園・ヘルパー・居宅
12月	年忘れお楽しみ会	安生園
1月	初笑いミニ運動会	安生園
2月	節分豆撒き マグロ祭り	安生園 安生園
3月	物故者慰霊祭 総合防災訓練 転出職員紹介	安生園 安生園・ヘルパー・居宅 安生園・ヘルパー・居宅

(2) 会議・委員会等

会議・委員会	所 属	回 数
全体会議	安生園・ヘルパー・居宅	毎月1回
支援課会議	安生園	毎月1回
入所検討会議	安生園	随 時
個別支援会議	安生園	随 時
苦情解決会議	安生園・（利用者自治会）	随 時
厨房会議	安生園・委託業者	毎月1回
給食会議	安生園・（利用者代表）・委託業者	毎月1回
ミーティング	安生園・ヘルパー・居宅	毎 日
連絡調整会議	安生園・ヘルパー・居宅	随 時
ヘルパー研修会・会議	ヘルパー	毎月1回
居宅定例会議	居宅	週1回
事故防止委員会	安生園・ヘルパー・居宅	随 時
感染症対策委員会	安生園・ヘルパー・居宅	年4回
人権擁護委員会	安生園・ヘルパー・居宅	年4回
フレイル予防委員会	安生園	随 時
防災委員会	安生園	随 時
安生園住環境整備・改築、修繕 検討委員会	安生園	随 時
サービス評価・向上委員会	安生園・ヘルパー・居宅	随 時
ホームページ・広報委員会	安生園	年4回
環境整備委員会	安生園	随 時
研修委員会	安生園・ヘルパー・居宅	随 時
図書委員会	安生園	随 時

5 健康管理

嘱託医、関係機関との連携を強化しながら、年間保健衛生計画に基づき疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

6 安全・防災管理

利用者が安全で快適な生活が送れるよう安全・防災管理対策として次の事項を実施した。

- (1) 四半期毎に事故防止（リスクマネジメント）委員会を開催し、事故防止に努めた。
- (2) 利用者への交通安全対策として、日々の外出・通院時に注意を促すとともに、掲示物による注意喚起や毎月の懇談会での啓発を積み重ね、意識の浸透に努めた。
- (3) 防災管理として、防災担当者による自主点検及び法定点検の実施、年2回の総合防災訓練を実施した。また、BCPについては、風水害を想定した実施訓練（炊出し訓練を含む）を1回、感染症を想定した実施訓練・机上訓練を各1回実施した。

7 ボランティア・実習等の受入れ

ボランティアの受入れについては、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化を目指す取組であることから、安生園納涼夏祭りにおいてボランティア11人の受入れを実施した。

また、実習生の受入れに当たっては、福祉人材の育成を目指し真摯な対応に努めた。

I 養護老人ホーム安生園

1 概況

令和6年度の措置入所は3人（青森市3人）、退所は17人（青森市17人）であった。利用者の高齢化（平均年齢80.5歳、80歳以上16人）により、介護を必要とする利用者は、要支援・要介護者合わせて43人となり、介護保険サービスの利用は、外部・内部・福祉用具貸与あわせて計79人（重複計上）であった。身体機能の低下のほか、認知症、病弱、精神疾患のある方やDV、触法など、ニーズの多様化と複雑化が顕著であり、従来の見守り支援から、きめ細かな専門的な支援が必要となっている。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

青森市内の地域包括支援センターや関係医療機関連携室などへ訪問し事業の周知に努め、空床情報を随時発信し安定した利用者数の確保に繋がるよう努めたが、定員に対する利用者の減少に歯止めがかからず、年度決算としては大幅な赤字収支となった。

(2) 定員80人への対応

定員100人からの削減に伴い、削減対象となる居住区画（あやめ寮）利用者の居室移動を円滑に進め、削減した居室については、当園実施事業及び法人内他事業所も含めた有効活用を進めた。

(3) 住環境の整備

既存施設の老朽化に伴い、付帯設備の修繕・更新など利用者の住環境の整備に重点を置いた居室リフォームを随時実施した。

また、設備整備について青森市と情報交換を継続した。

(4) 感染症対策の強化

感染症対策を講じたゾーニングエリアと陰圧室を活用し、感染症拡大防止の強化に努めた。また、施設の特徴を踏まえ、訪問介護事業所等の外部サービス利用も念頭に置き関係機関等との情報共有を行い安全確保に努めた。

(5) 利用者支援の充実

利用者個々の身体機能、認知機能、生活機能等のADLの低下予防に向け、食事、口腔ケア、余暇活動の充実に努め、特性に配慮した支援に取り組んだ。

(6) 非常災害対策の強化

B C Pに基づき、多発する自然災害に備え、利用者の安全安心を第一に事業継続できるよう安生園災害マニュアルに基づき、非常災害時の炊き出し訓練、風水害を想定した訓練を実施した。

(7) 虐待防止と人権擁護

人権擁護・虐待防止委員会及び身体的拘束廃止委員会で、職員への理解を図るための動画視聴形式研修会を行い、意識向上を図った。

3 事業の実施状況

(1) 事業名 養護老人ホーム

(2) 定 員 80 人

(3) 概 要

老人福祉法に基づき、原則として 65 歳以上で、環境上の理由及び経済的な理由により居宅において一人で生活することが困難な方を養護するとともに、社会活動に参加するために必要な支援及びその他の援助を行った。

(4) 支援目標

① 自立した生活形成に向け、利用者個々の意向と状態を把握し、長く生活できるよう適切な支援につなげた。

また、終末期を迎えた利用者について、医療と連携し可能な支援とサービス提供に努めた。

② 利用者健康管理に努め健康診断及び歯科検診、口腔衛生、予防接種等を通し、疾病の予防、早期発見・治療に努め、日常の保健衛生意識の向上を図った。

また、手洗いやうがい、消毒の励行と健康の保持と感染症予防に努めた。

③ 生きがいづくりと、余暇活動の充実に努め、個々の希望に添えるような園内外活動とクラブ活動の充実、自治会活動・懇談会等を通じて主体性を発揮できる環境を整えた。

④ 苦情解決事業による利用者の日常的な状況把握と意見傾聴のため、相談・意見箱の設置及び満足度調査を実施し、利用者の権利擁護を推進した。

⑤ 高齢者の虐待防止と人権擁護に取り組み、信頼され安心して生活できる環境作りを進めた。

(5) 事業の実施状況

① 行事等

名 称	実施時期等	参加人数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 422 人	
観桜会	4/17	58 人	
自治会代表者会議	年 4 回	延 22 人	
コーヒーサロン	年 3 回	122 人	
ビデオ上映	20 回	延 142 人	
出張販売 (6 業者)	週 1～2 回	延 200 回	ヤクルト・生協・キキ・東洋社他
利用者との集い (4 月)	4/1	50 人	転入職員紹介
自治会総会	4/1	50 人	
輪投げ大会	6/21	50 人	地域老人クラブ参加
地域交流懇談会	6/15	16 人	団体代表者参加
納涼夏祭り	7/26	76 人	ねぶた大好き隊 11 人、来賓 6 人

盆墓参り	8/2	17 人	
敬老会	9/18	祝賀会 64 人	
市内遊覧	—	—	※花見外出を予定したが雨天のため中止となる。
ミニ運動会	1/16	43 人	
リフレッシュ日帰り旅行	9/24 10/17 1/21	7 人 5 人 4 人	サンロード青森 青森駅、A-factory 善知鳥神社
文化祭	11/1	61 人	第三者委員等、来賓 7 人参加
年忘れお楽しみ会	12/15	58 人	第三者委員参加 葛西委員・千葉委員
節分豆撒き	2/3	36 人	
物故者慰霊祭	3/4	22 人	蓮華寺住職
マグロ祭り	3/19	74 人	
利用者との集い（3 月）	3/31	44 人	転出職員紹介

② クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
華道	11 回	延 97 人	
書道	2 回	延 10 人	
農園芸	不定期開催	延 59 人	花植え、野菜苗付け、花壇整備等
大相撲星取り	年 6 回	延 68 人	
カラオケ	8 回	延 107 人	
ウォーキングクラブ	4 回	延べ 10 人	

③ 地域交流

団体等名称	交流内容	実施時期	備 考
虹ヶ丘町会	虹ヶ丘春の大清掃	5/12	職員参加
	虹ヶ丘街路植栽	5/26	利用者・職員参加

④ 交流（慰問）

団体等名称	内 容	実施時期	備 考
青森市立浦町小学校	りんご寄贈・交流	10/17	

⑤ 招待活動状況

団体等名称	内 容	実施時期	参加人数
ラインメール青森 FC	試合観戦	6/22	28 人
青森県長寿社会振興センター	シニアフェスティバル	9/7	11 人
平内町水産商工観光課	夜越山洋ランまつり	3/10	3 人

⑥ ボランティア等の受入状況

団体等名称	奉仕内容	実施時期	人 数
ねぶた大好き隊	納涼夏祭りねぶた囃子	7/26	11 人

⑦ 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年 1 回 4/12	全員	
血圧・体重測定・検温	月 1 回	全員	
入浴	週 3 回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院（村上病院他）	週間計画表により実施	対象者	
結核健診	4/25	77 人	青森県総合健診センター
春・秋の基本健診 （理学的検査・尿・血液・心電図）	5/16	76 人	青森県総合健診センター
	11/13	73 人	青森県総合健診センター

利用者講話（保健衛生）	8/28	27 人	青森県保健衛生課
歯科検診（前期）	5/15 5/22	72 人	歯科（北川歯科医院）
歯科検診（後期）	10/23 10/30	72 人	歯科（北川歯科医院）
歯科衛生指導	5/15 5/22 10/30 12/11	52 人	青森県歯科衛生士会 青森支部
内科問診及び インフルエンザ予防接種	11/6	66 人	嘱託医（駒井胃腸科内科）
新型コロナウイルス ワクチン予防接種	11/12～7 回に分けて通院	65 人	施設巡回接種 （佐藤内科クリニック）
嘱託医による医療相談	月 2 回	対象者	内科（駒井胃腸科内科）
嘱託医による診察	月 1 回	対象者	精神科（つくしが丘病院）
感染症対策委員会	4 回		
春の大掃除	6 月		窓・網戸清掃等
秋の大掃除	12 月		暖房・各居室清掃等

⑧ 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加人数	備 考
地域防災協力隊合同夜間防災訓練	7/6	92 人	地域防災協力隊団体参加含む
夜間想定防災訓練	3/27	75 人	
災害時炊き出し訓練	9/27	54 人	
風水害訓練	9/27	54 人	
B C P 訓練（風水害）	9/27	全職員	
B C P 訓練（感染症）	11/20	全職員	
B C P 机上訓練（感染症）	11/20	全職員	

⑨ 職員研修関係

内 容	実施時期	参加人数	備 考
感染対策普及研修	11/20	17 人	川崎看護師
感染症 5 類移行後の対応研修	3/5	14 人	駒井内科 駒井立子副院長
ハラスメント予防研修	9/11	2 人	みぞえ社労士オフィス 溝江隆仁氏
利用者支援理解促進研修	11/29	5 人	健康運動指導士 棟方由美子氏
虐待防止と権利擁護	11/19	2 人	青森大学 船木昭夫 氏
安生園職員研究発表会	12/25	23 人	すこやか苑合同開催

※外部（保健大学・老施協・社協・介護労働センター等）主催研修へ参加。

※内部（法人）主催研修へ参加。

⑩ 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月 1 回	※苦情相談件数は 1 件。
苦情解決協議会	年 4 回	

【実施状況】

苦情受付件数	解決件数	繰越件数
1 人	1 件	0 件

⑪ 実習・実務研修等受入

依頼元（実習内容）	受入期間	人 数
青森明の星短期大学（介護福祉実習Ⅱ－A）	9/2～9/21	2 人
青森県立保健大学（ソーシャルワーク実習Ⅰ）	8/7	1 人
青森県立保健大学（社会福祉基礎実習 1 年生）	7/3 7/4	7 人
青森県立保健大学（ヘルスケアマネジメント実習）	10/1～10/25	20 人

Ⅱ 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

1 概 況

訪問介護事業所は、安生園利用者の介護施設等への移行に伴う利用者減少により昨年度実績を下回る結果となった。

福祉有償運送事業においては、介護保険外サービスである福祉タクシーの需要が増え増収となった。

2 重点事項の実施状況

（1）安定的経営基盤の確保

訪問介護事業所は、安生園利用者の施設移行等により平均利用者数が月 40 人と減少し、目標としていた月 50 人には届かなかったが、サービスを利用されている方の新たなニーズからサービス追加等を随時行った。また、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所より新規利用者の受け入れ、サービス追加の依頼があり、新規利用者については 13 人（前年度 9 人）と新たに契約した。

要介護利用者数は、前年度比延べ 1,227 人減、収入では、3,700 千円減となった。また、介護予防利用者数は、前年度比 130 人減、収入では、220 千円減となり、合計で 3,920 千円の減収となった。

福祉有償運送事業においては、前年度比 34 千円増となった。介護保険内サービスである介護タクシーの稼働率は前年度比 40 千円減だったが、介護保険外サービスである福祉タクシーの稼働率が増え前年度比 75 千円増となった。

（2）職員の質の向上

職員の持ち回りによる内部研修を毎月開催することにより職員の資質向上に努めた。また外部研修にも可能な限り参加しスキルアップを図った。

3 事業の実施状況

（1）事業名 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・福祉有償運送事業

（2）概 要

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者で、要支援・要介護者に対して指定訪問介護計画等に基づき、入浴・排泄・食事・通院等の介助、洗濯・掃除等の日常生活に必要な支援を個別に訪問して実施した。

（3）支援目標

- ① 指定訪問介護及び介護予防訪問介護は、利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は要介護状態にならないよう予防に資するように目標設定し、ADL の維持・向上を目指した。
- ② サービス利用計画に基づいた適切なサービスに努めた。
- ③ 訪問介護等の提供にあたっては、懇切丁寧に支援するとともに利用者又は家族（身元引受人）に対し、サービスの提供方法等について理解できるように説明した。
- ④ 利用者の心身の状況や置かれている環境等の的確な把握に努め、信頼関係を築くよう努めた。
- ⑤ 自ら提供する指定訪問介護等のサービスの質の評価を行い、その改善に努めた。

(4) 利用状況

① 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合 計		訪問介護		予防介護	
延利用 人数(人)	請求書 発行額(円)	延利用 人数(人)	請求書 発行額(円)	延利用 人数(人)	請求書 発行額(円)
5,770	21,010,892	5,546	20,182,022	224	828,870

② 有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	514.1	1,725.2
利用人数 (人)	72	364
輸送回数 (回)	141	758
収 入 (円)	145,080	201,600
収入合計 (円)		346,680

Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

1 概 況

令和6年度は、安生園利用者の施設移行等の影響を受け、契約者数は減少となった。また、介護支援専門員3人体制で開始したが、従事要件の変更により、令和6年度採用の介護支援専門員1人が6月まで介護支援専門員として従事することができず、特定事業所加算を3か月間取得することができなかった。従事資格の取得ができなかったことにより担当利用者数が制限され、年度当初の新規契約者の獲得が難しく、収入が減少となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

地域包括支援センター等への広報活動により新規契約者の獲得や安生園利用者の施設移行時においても継続して担当することで、契約者の減少を最小限に留めたが、安生園の定員の削減等による契約終了や死亡も多く、利用者数は月平均73件となり、目標としていた85件には届かなかった。延利用人員についても、前年度比延べ1,002人に対し870人と137人減となり、居宅介護支援費では290千円の減収となった。

(2) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、オンラインでの外部研修の受講を進めるとともに、毎週の定例会議を利用して「介護保険法」等の制度理解と事例検討会を実施し、職員の資質向上を図った。

3 事業の実施状況

(1) 事業名 居宅介護支援事業

(2) 概 要

介護保険において要介護状態と認定された方に対して在宅サービスの適切な利用等が可能となるよう、要介護者の心身の状況や環境、意向等を勘案して居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、当該居宅サービス計画に基づく在宅サービスの提案が確保さ

れるよう、事業者等との連絡調整をおこなった。

(3) 支援目標

- ① 指定居宅介護支援の提供にあたっては、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保険医療サービス及び福祉サービスが、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮した。
- ② 事業の実施にあたっては、市町村、地域包括支援センター、他の指定居宅介護支援事業所、介護保険施設等の保健・医療・福祉サービスとの連携に努めた。

(4) 利用状況

合 計		居宅介護計画		予防介護計画	
延利用 人員(人)	請求書発行 額(円)	延利用 人員(人)	請求書 発行額(円)	延利用 人員(人)	請求書 発行額(円)
870	13,651,794	831	13,484,430	39	167,364

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概 況

令和6年度の運営にあたり、法令遵守の徹底と権利擁護を推進し、利用者が生きがいを持ち楽しく、安心して快適に日常生活を送れるよう、家族や関係機関等と連携しながらより充実したサービス提供に努めた。基本計画及び事業計画を確実に実施できるよう把握し滞りないよう、各部署の重点事項の実施に取り組んだ。

経営基盤の安定に向けては、見学や短期入所を積極的に受け入れながら利用者の欠員補充へ取り組んだが、しらかば寮では高齢利用者の入院を経ての退所者が多く発生し、利用率の低迷が続いた。また、職員の確保では、両施設とも年間通して欠員状態が続き、感染症の発生もあり支援体制上厳しく加算取得ができない状況があった。

また、物価高騰が続き、節電・節水等に努めるも、施設設備の経年劣化による高額な修繕が発生し、費用も増えた。

I C T化の推進においては、利用者へのサービスの向上と施設運営の改善・活性化のため、I C T委員会からの提言を受け、「アアムス」（見守り介護ロボット）を増やし、Wi-Fi環境を整備し、インカムやサイボウズ（職場内の情報にアクセスできるツール）を活用しながら情報共有や業務改善の強化を図った。

職場環境の向上においては、ハラスメント防止対策における指針を策定し、朝の申し送り時の読み合わせ事項の整備、ストレスチェックの実施、相談窓口の周知徹底など、メンタルヘルスケアの充実と働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

感染症については、予防対策に取り組んできたものの、何度かクラスター感染が確認され、その都度、日課の変更や行事の中止、迅速なゾーニング、欠員職員の穴埋め、頻繁な所内消毒など徹底し早期収束に努めた。

災害対策については、B C Pに基づいて必要な物品等の整備・点検や研修及び訓練を実施し対策強化に努めた。

2 重点事項の実施状況

（1）感染症の予防対策とウィズコロナに向けた取組

① 感染症基本対策の徹底と行事等の制限緩和

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等感染症予防の基本対策を徹底するとともに、B C Pにおける研修や訓練により、施設機能の維持に向けての対策強化に取り組んだ。

行事等については、一泊旅行の再開、少人数での買い物外出や訪問販売、居室での個別面会の再開等、行動制限を緩和して実施した。

（2）人材確保と育成・定着

① 幅広い層への人材確保の取組み

人材不足の対策として、さつき寮・しらかば寮共に短時間労働者を募集し、さつき寮で年度内1人、新年度から更に1人5時間勤務での採用が決まった。引き続き、多様な働き方推進の一環として継続していく。

② O J Tの実施と計画的な研修受講（サポカレの受講）

日常におけるO J Tと研修計画による研修受講に取り組み、サポーターズカレッジの活用では、各職員に合わせた内容から必須とした4項目、各自希望する2項目を受講した。その他、各自の自己啓発に活用した。

（3）働きやすい職場づくりとコンプライアンスの徹底

① 3S(スマイル、セイケツ、スタイル)運動の推進

強化期間ごとに啓発ポスターの掲示や各種会議での周知徹底をし、笑顔でのあいさつや身の回りの整理整頓、身なりを整え清潔感を意識することに取り組んだ。

② コンプライアンス宣言の策定及び自己チェックの実施(年4回)

コンプライアンス宣言を策定し、自己チェックはしらかば寮4回、さつき寮3回実施した。今後も継続しコンプライアンス宣言による行動指針に基づき推進に努めていく。

③ ハラスメント防止対策の強化(研修の開催及び通報・相談窓口の周知)

ハラスメント相談窓口について、会議及び掲示にて周知した。研修は、サポーターズカレッジで対象別に選定した項目を全職員が受講し、対策強化を図った。

3 職員の状況

所 属 (職員数)	所長	寮長	課長	主任	副主任	支援員	看護師	事務員	栄養士	運転員	専任 当直員	合計
総務課	1		1		1			3	1	1	3	11
しらかば寮		(1)	2	2	4	39	1					48 (1)
さつき寮		1	1	2	3	19	2					28
合 計	1	1 (1)	4	4	8	58	3	3	1	1	3	87 (1)

※所長はしらかば寮長(1)を兼務とし、しらかば寮副主任4人に看護師計1人含む。

※さつき寮相談支援事業所はさつき寮として集計し、嘱託医は除く。

4 職員研修

当法人の人材育成実施要綱及び施設内研修計画に基づいた研修を実施し、専門性の向上に取り組んだ。特に、新任職員には育成プログラムを作成し実施するほか、施設全体でOJTを推進する体制に努めた。

また、高齢化や重度化した利用者など、特別な支援が必要な利用者に対して、専門的支援を継続して提供できるよう、強度行動障害や認知症に関する研修など、各施設において必要とする研修を実施した。併せて、サポーターズカレッジの積極的な活用を促し、自己啓発の機運向上に努めた。なお、職員個々の資格取得を推奨したことから、介護福祉士1人の資格取得に至った。

5 健康管理

健診(血液検査・心電図・結核検診・血圧測定・尿検査)や癌検診(30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診)を実施しながら、嘱託医(精神科)や家庭との連携を強化し、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

なお、協力医療機関はもとより、緊急時には県立中央病院や嘱託医、家族等と連携し迅速に対応した。

6 食 事

食事は健康保持のために重要であり、施設生活における大きな楽しみの一つでもあるため、少しでも家庭的な雰囲気の中、楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮しながら提供した。

また、季節の食材を取り入れた多彩な献立や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めるとともに、利用者の栄養・健康状態に着目した栄養マネジメントを実施した。

嗜好調査や給食委員会においても、利用者等の意見・要望を取り入れながら、介護食を試行するなど利用者の食生活の充実に努めた。

7 安全・防犯対策

(1) 安全対策

- ① 利用者の安心・安全な生活を維持するため、事故等の未然防止に努めるとともに、施設設備の保全に取り組んだ。
- ② 事故発生時には迅速な対応及び職員間の連携が必要であるため、各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、インシデント、アクシデントレポート等の速やかな報告と内容の検討により対応策を講じた。

(2) 防犯対策

外部からの不審者等の侵入に対する危機管理の観点から、利用者の安全確保を最優先とした危機管理体制マニュアル（不審者対応）の周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について、専門機関（警察等）から協力を得てDVDを借用し視聴研修を実施した。

8 災害・感染症対策

(1) 災害対策

- ① 新採用及び転入職員等に対し、非常時における対応について防災教育を行った。
- ② 消防・防災（風水害等）計画に基づいて消防訓練及び風水害等を想定した訓練を実施したが、感染症予防対策のため地域防災協力隊と連携した訓練は実施できなかった。防災及び関連設備、機器の取扱、使用方法については訓練し周知を図った。
- ③ 非常時の備蓄食品（水・食材）として、常時3日分を確保するとともに、保管にあたっては衛生面や備蓄食品を分散させておくなどに留意した。
- ④ 自然災害におけるBCPに基づき、研修及び訓練を実施し災害対策の強化を図った。

(2) 感染症対策

- ① 感染症の発生及びまん延の防止等に関する取組みの義務化に伴い、感染症対策指針に則り、感染症対策委員会を毎月の開催及び内容の周知、また、BCPに基づく研修及び訓練を実施し、感染症対策の強化を図った。
- ② 感染者発生時は、迅速なゾーニング等感染対策対応を実施し、感染拡大を最小限に収めた。

9 実習・ボランティアの受入れ

しらかば寮書道クラブの講師としてボランティアで町内住民の方に引き続きご指導いただき実施した。感染症予防対策により、学校等から積極的かつ計画的に受入れすることは出来なかった。

また、社会福祉に関する知識と専門性を有する地域の社会資源として、県立保健大学、明の星短期大学からの実習生を受入れた。

10 地域社会との連携

地域との連携について、春時期、小豆沢地区での清掃奉仕活動（道路のごみ拾いと川

へのEM菌投入)の行事に職員・利用者が参加し、地域住民との交流を図った。

また、関係機関等と連携し、短期入所事業や日中一時支援事業、地域生活支援拠点事業を実施し、地域で生活する障害児者を支援した。

さらに、共生社会の実現と社会福祉法人の使命である社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町の健康・福祉に関する各種会議（自立支援協議会、健康・福祉推進協議会、地域ケア会議等）に職員が委員として参加して、多様化・複雑化が進む地域の福祉ニーズを的確に把握しながら対応した。

第4-1 障害者支援施設しらかば寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業しらかば寮

1 概況

令和6年度においては、寮の「基本理念」の下、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めた。

特に利用者の重度化や高齢化が進み、介護ニーズや医療ニーズが高くなっていることから、それぞれの支援においては、利用者にあったペース、体力、安全などを考慮しながら、また、身体状況の変化や機能低下が著しい利用者には、迅速に医療機関とも連携しながら適切な対応に努めた。

令和6年度は4人の利用者が医療機関入院中に肺炎により亡くなった。新規利用者は在宅から2人、障害児施設から1人、精神科医療機関より1人、他施設から2人の受け入れを行った。

感染症については、1月にインフルエンザが蔓延し、利用者職員合わせて44人が罹患し、うち2人が入院、1人が死亡となった。

経営状況については、平均利用率92.4%にとどまったが、令和6年度報酬改定により重度加算対象者が増えたことから、当初の見込より増収となった。

新型コロナウイルス感染予防対策の緩和により、外来者との交流や見学等の機会が増え、家族との交流では大勢が集まる面会日は開催していないが、個別面会をホーム内で実施している。また、余暇の充実については、グループでの外出や買い物外出などの機会を増やし、延べ123回、282人の利用者が参加した。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度利用者・発達障害利用者に対する支援の充実

① 強度行動障害支援者養成研修の受講

行動障害を有する利用者への支援の充実のため、強度行動障害支援者養成研修では基礎研修に1人、実践研修へ1人の職員を参加させた。

② コンサルテーションの活用と特性等に応じた個別活動の提供

発達障害者支援センターのコンサルテーションの受入れを3回実施し、利用者の個別の状況についての助言を得て支援に反映させたほか、支援力強化事業においてコンサルティ2人を法人内施設へ派遣した。

(2) 高齢利用者に対する支援の充実

① ノーリフトケア（腰痛予防）の推進

協力医療機関である平内中央病院の協力を得て、理学療法士による介護技術に関する研修会を実施したほか、利用者の個別の状況についてカンファレンスを開催し支援力向上に努めた。

② 介護予防・認知症に関する支援技術の向上と生きがいづくりの提供

介護技術・認知症等の研修については、高齢利用者に対するレクリエーション研修のほか、国立のぞみの園や介護労働安定センターが主催するセミナー等に参加した。

また、コロナ禍により休止していたチェアヨガを再開させるとともに、帰省の少ない利用者の出身地付近への小グループ外出を実施した。

(3) 安定した経営基盤の強化

① 県内外の行政機関、相談支援事業所との利用者獲得への取組

県内の相談支援事業所等より 26 件及び昨年度より調整を重ねている情報提供のあった利用者について、相談支援事業所及び精神科病院、家族との連絡調整と状況の把握を行い受入態勢の整備を行い、6 人の利用者が入所した。

② 入所に向けた見学、体験利用の積極的实施

入所検討の情報提供があった利用者からの施設見学を 12 件実施した他、体験利用や環境に慣れるための短期入所を実施した。

(4) 組織機能の強化

① 職員ユニット制による職員育成

職員ユニット制については、業務内ではユニット間で協力する体制で勤務しているが、ユニットリーダーを中心としたユニット会議において、利用者の抱える支援課題について対策を検討する体制を進め、組織運営の効率化に向けて継続的に取り組んだ。

② ICTを活用した業務体制に向けた整備及び効果の検証

令和 6 年度障害福祉分野のロボット等導入支援事業については採択されなかったが、業務効率化の一環としてインカムの導入及び aams（アアムス・見守り介護ロボット）3 台の増設を行った。また、サイボウズの活用では紙の配置表を廃止し、情報の集約及び電子化を図った。

(5) 障害福祉サービスの適正化及び虐待防止の意識の徹底

① 意思決定支援ガイドラインの策定

日本知的障害者福祉協会が主催する意思決定支援を推進するための実践研修会を受講し、ガイドライン策定に向けた情報収集を行った。

② 福祉サービス第三者評価受審に係る準備

令和 7 年度の第三者評価受審に向けて青森県社会福祉協議会と協議を行った。また、マニュアル等の整理や、社会資源の一覧等不足しているものについて整備を行った。

(6) 生活支援環境の整備・向上

① 居住棟見直しの検討

居住棟再編成については、女性利用者獲得の取り組みを行ったところ、今年度 2 人の入所となったため、現状の男性 48 人、女性 31 人の体制を維持し、中・長期的に設備の改修も含めて引き続き検討することとした。

② 支援環境の改修

汚損、劣化しているカーテンの入れ替えを行い、破損頻度の高い扉の強度を上げた。また、ホーム内の間仕切りの設置について、来年度実施に向けた準備を行った。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	生活介護	施設入所
定 員(人)	80	80
令和 5 度末現在利用者数(人)	77	77
令和 6 度内退所利用者数(人)	4	4
令和 6 度内入所利用者数(人)	6	6
令和 6 度末現在利用者数(人)	79	79

(2) 年齢別利用者数

男女別 年齢別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10～19	2	1	3				2	1	3
20～29	7	3	10	2		2	9	3	12
30～39	8	1	9	1		1	9	1	10
40～49	3	5	8	4		4	7	5	12
50～59	2	4	6	3	1	4	5	5	10
60～69	1	5	6	11	2	13	12	7	19
70～79		1	1	4	3	7	4	4	8
80 以上					5	5		5	5
合計(人)	23	20	43	25	11	36	48	31	79
平均年齢(歳)	32.9	48.8	40.1	58.1	68.5	61.5	46.0	57.5	50.1

(3) 障害支援区分別利用者数

男女別 障害支援区分別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
区分 1									
区分 2									
区分 3									
区分 4	1	5	6	2	2	4	3	7	10
区分 5	5	8	13	9	6	15	14	14	28
区分 6	17	7	24	14	3	17	31	10	41
合 計	23	20	43	25	11	36	48	31	79

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の維持・向上のために必要な支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。身体機能の低下に起因する転倒、転落、誤嚥等のリスク軽減に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、リサイクル活動の実施

ア 生活リズム班

A D L等の自立度により、年間個別支援計画に沿った支援を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、体育館で遊具を使用して身体を動かした。また、個別のニーズ把握に努め、一人ひとりの特性や趣向に応じて音楽鑑賞、創作的活動、リサイクル活動等を行った。

イ 介護予防班

利用者のA D Lや障害特性に配慮し、健康体操、個別リハビリ、趣味活動を行いストレスの軽減に努めた。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴う生活習慣病とともに、行動の低下による廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており、管理栄養士による栄養管理の他、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し、生活習慣病の予防に努めるとともに、毎月体重測定と運動の励行を行った。

イ 医療状況

嘱託医診療

精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回

ウ 検診状況

対象者 全員

検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診

各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施）

エ インフルエンザ予防対策

インフルエンザワクチンを接種するとともに、抗菌マスク、微粒子マスク、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し、うがい、手洗いの励行、アルコール手指消毒器の使用、マスク装着の指導、換気、大型加湿器による環境整備を行い、予防対策に努めた。

オ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスワクチンを接種希望する利用者へのワクチン接種を1回実施した。

カ その他の感染症対策

感染症対策として、施設に入る業者に対する検温（37.5℃以上は入室不可）と手洗い、うがい、アルコールでの手指消毒、マスクの装着を徹底し感染対策に努めた。

職員も出勤時に身体症状及び検温（37.5℃以上は勤務不可）と手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用を働きかけた。また、感染症発症時の対応セット（N95マスク、フェイスシールド、保護用予防衣、使い捨て手袋、アルコール除菌タオル）を常備し、必要時には速やかに使用し感染拡大防止に努めた。

感染者が発生した際は、ゾーニングやホーム単位でのコホーティングを行うとともに、必要に応じて保健所に連絡の上、かかりつけ医と連携して早期収束に努めた。

また、手指消毒器を居住棟出入り口に設置して手指の消毒を指導したほか、毎食後に食堂のテーブル、椅子、手すり、ドアノブ等を除菌ウェットタオルで消毒し、食中毒などの感染症予防を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル）を各棟に用意し、感染症マニュアルに則った感染予防に努めた。

キ 通院状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内 科	63	447	31
精神科	59	643	53
耳鼻科	1	1	
歯 科	19	157	

皮膚科	8	22	3
外 科	10	39	2
整形外科	20	131	8
眼 科	1	1	
泌尿器科	8	108	7
総合診療	2	3	
呼吸器科	1	7	
神経内科	1	1	
合 計	193	1,560	104

ク 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病 名
内 科	8	667	肺炎、食思不良 低酸素脳症
脳神経内科	2	127	深部静脈血栓、左脳出血
精神科	1	8	尿路感染疑い
合 計	11	802	

④ チェアヨガ活動

身体機能の活性化を図るため、コロナ禍によりこれまで休止していたが、8月より講師を招き4回実施した。

⑤ アニマルセラピー

利用者の生活に潤い及び情緒の活性化を図るため、青森アニマルセラピー協会の協力を得て4回実施した。

⑥ 個別及びグループ毎の外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、個別・グループで楽しい時間を過ごす事を目的に実施した。

⑦ 出張販売、調理体験

コロナ禍で外食を控える中、非日常の体験を響するため、飲食店から出前や出張販売の受入れを4回行った。

また、食に関する理解を深められるよう、調理体験を実施した。

【出張販売】

実施日	参加	内容
5月20日	75人	株式会社 OGI スムージー村
5月30日	75人	Toshis DINER
6月18日	75人	キッチンテルテル
3月11日	77人	スイートカフェ CORORON

【調理体験】

実施日	参加	内容
4月20日	一課 42人	フルーツヨーグルト
4月20日	二課 36人	プリンにトッピング
5月25日	一課 41人	チョコバナナ
5月25日	二課 35人	フルーツチェ

6月8日	二課 36人	水ようかん、杏仁豆腐、パンナコッタ
6月29日	一課 42人	餃子
7月21日	一課 42人	焼肉
9月21日	二課 36人	パンナコッタ・ゼリーにトッピング
10月12日	二課 36人	コーヒーゼリーとプリンにトッピング
11月9日	二課 36人	ヨーグルトにトッピング
12月7日	二課 36人	フルーツみつ豆にあんこトッピング
12月21日	一課 42人	デコレーションケーキ
2月28日	一課 41人	ミニホットドッグ

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談のほか、生活介護等の日中活動と合わせて支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループ毎の外出の支援

青森市、平内町を中心にドライブ外出等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて買物、や飲食を伴う外出等随時実施した。また、小グループで鶴田町や大畑町、十和田市への外出を行った。

イ 招待外出

3月に平内町より招待を受け、夜越山洋ラン祭りに利用者職員合わせて 21 人が参加した。

ウ 外部講師による活動の支援

書道 実施日：月 2 回（第 2、4 水曜日） 9:40～10:40

参加者：一課利用者 3 人、二課利用者 8 人

実施回数 3 回

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成 24 年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。シーツ等週 1 回、タオルケット・肌掛けカバー月 1 回、布団カバー月 1 回、掛け・敷き布団年 1 回の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄、管理

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週 1 回消毒・洗浄し、個々の収納棚に保管するなど、衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大掃除

各居室内、食堂の換気扇及びエアコンフィルターの大掃除、ライトコートの大掃除を年 3 回実施した。その他、春の大掃除と年末の煤払いを計画的に行った。委託業者による特別清掃は年 6 回実施した。

エ 室温等の管理

冬期間の乾燥対策として各ホームに加湿器等を設置し、湿度の調整を行った。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 人権委員会の開催

人権委員会を年 12 回開催し、その中で苦情解決事業（委員会）や虐待防止事業（委

員会)、身体拘束適正事業(委員会)についてそれぞれの事案について報告・検討を行った。また、委員会の議事録については、全職員に周知した。

② 苦情相談システムの利用促進

苦情件数は0件、相談件数は5件だった。苦情ではなく不安、相談を述べるだけのものであった。

苦情内容	件 数
サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満など)	0 (相談1)
利用者間の人間関係など	0
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0 (相談2)
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0 (相談2)
病気/怪我/医療面	0
その他(上記以外のもの)	0
合 計	0 (相談5)

苦情解決協議会及び虐待防止協議会を10月と2月に開催し、第三者委員や利用者代表、保護者代表からそれぞれ意見をいただいた。

③ 意思決定支援の推進

意思決定支援について、外部講師を招き、全職員に向けた研修を実施した。また、個別支援策定会議を利用者同席のもと開催した。

④ 利用者への情報公開・情報提供の充実

各種情報については掲示板を活用するとともに、事業計画や、事業報告の概要等については利用者説明会を開催し、その中では写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用し説明した。

(4) 地域交流

4月に地域交流を兼ね小豆沢地区での清掃奉仕活動を行ったほか、平内町民文化祭に利用者5人が参加した。

(5) 家族との連携

ホーム内での個別面会のほか、希望者についてはオンライン面会や旧館での個別面会を実施した。また、一時帰省についても感染症対応時以外は個別に実施した。

① 利用者個別支援計画

個別支援計画については、その内容を家族と十分協議しながら設定した。また、支援目標や支援経過についても電話や書面等を通じて随時家族へ説明した。

② 保護者全体懇談会

感染症防止のため年2回の全体懇談会については中止とし書類配布を行った。

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、毎月リスクマネジメント委員会を開催し、アクシデントレポート等の検証、対策を話し合い支援会議等で職員へ周知した。

事故内容		件数
病院受診や 入院	骨折	1
	転倒	3

(アクシデント LV 3 以上)	裂傷	1
	出血	1
	他害	1
	救急搬送	4
観察及び 寮内処置等 (アクシデント LV 2 以下)	転倒・転落・衝突	131
	打撲・裂傷・出血	26
	誤嚥・喉詰まり	0
	異食	11
	誤薬・服薬忘れ・薬間違い	16
	他害・粗暴行為	120
	無断外出	1
	その他	42
合 計 (アクシデント LV 2 以下)		347

(7) 職員研修

令和 6 年度は計画的に法人内外の各種研修に参加した。強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）に 1 人参加するとともに強度行動障害支援者養成研修（実践研修）にも 1 人参加した。外部関係機関と連携（コンサルテーションの利用）を図り、コンサルティとして 2 人の職員が障害の理解と支援技術の習得に繋げた。また、高齢知的障害者における認知症の研修にリモートではあるが 2 人の職員が参加した。

また、なつどまり内での職員研修として、救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修等を開催した他、協力医療機関の協力を得て、介護技術に関する研修を行った。オンライン研修「サポーターズカレッジ」を活用し、ハラスメントに関する研修や職員に向けて自身が自己啓発できる機会の提供を行った。

なつどまり合同研究発表会においては、日頃の支援の研究成果を発表（4 題）し、そのうち 1 題が青森県保健医療福祉研究発表会に選定されるなど、更なるサービスの向上を目指し取り組んだ。

(8) 行事の実施状況

実施期間	内 容	参 加
5 月 17 日	花見会	一課 41 人 二課 35 人
6 月 14 日	たのしみっこ BBQ	一課 41 人 二課 35 人
7 月 7 日	七夕会	二課 35 人
7 月 8 日	七夕会	一課 41 人
7 月 15 日	利用者会	一課 4 人 二課 4 人
8 月 16 日	納涼会	一課 41 人 二課 36 人
8 月 25 日	障害者スポーツ大会	9 人
9 月 13 日	長寿を祝う会	一課 7 人 二課 23 人
10 月 22 日	利用者説明会	
10 月 25 日	ハロウィン	一課 42 人 二課 36 人
10 月 26 日	利用者会	一課 4 人 二課 4 人
11 月 28 日	たのしみっこ	一課 42 人 二課 36 人
12 月 23 日	クリスマス会	一課 42 人 二課 36 人
1 月 10 日	新年会	一課 42 人 二課 36 人
1 月 20 日	成人式	一課 2 人
2 月 3 日	節分	一課 41 人 二課 36 人

3月2日	桃の節句	一課 41 人 二課 36 人
3月25日	利用者説明会	

【外出】

課	実施期間	内 容	人 数	備 考
二課	4月16日	買物	2	ラセラ
二課	4月18日	外食	1	まるまつ
二課	4月20日	買物	2	ラセラ
二課	4月23日	買物	2	ラセラ
二課	4月25日	ドライブ	15	青森市桜川
一課	4月26日	花見	3	合浦公園
二課	4月27日	買物	2	ラセラ
一課	4月28日	テイクアウト	6	ジークフリート
一課	5月2日	外食	2	ラーメン田
一課	5月13日	個別	3	青龍寺・サンロード青森
一課	5月15日	テイクアウト	2	とりさと
二課	5月18日	買物	2	ラセラ
一課	5月21日	個別	2	モスバーガー・成田本店
二課	5月21日	買物	2	ラセラ
一課	5月22日	買物	1	萬屋
一課	5月23日	買物	1	トイザラス
二課	5月23日	買物	2	ラセラ
二課	5月25日	買物	2	ラセラ
一課	5月26日	個別	1	アオモリボウル・しまむら
一課	5月27日	外食	1	鶴亀屋食堂
一課	5月28日	テイクアウト	1	ケンタッキー
二課	5月28日	買物	2	ラセラ
一課	5月29日	外食	4	びっくりドンキー
一課	5月29日	外食	1	やまなか家
一課	6月7日	外食	1	とんから亭
一課	6月9日	買物	2	イトーヨーカドー
一課	6月11日	買物	1	サンロード青森
一課	6月18日	買物	2	セブンイレブン
二課	6月18日	買物	2	ラセラ
一課	6月20日	外食	1	ステーキ宮
一課	6月20日	個別	2	夜越山森林公園
二課	6月20日	買物	2	ラセラ
二課	6月22日	買物	2	ラセラ
一課	6月24日	外食	2	まるまつ
二課	6月25日	買物	2	ラセラ
二課	6月25日	買物	2	ミニストップ
一課	6月26日	個別	1	サンロード青森
一課	6月27日	買物	1	メガドンキ
一課	6月27日	外食	1	まるまつ
二課	6月27日	買物	2	ラセラ

合同	6月28日	ドライブ	30	クルーズ船
一課	6月30日	テイクアウト	5	いも想い
二課	7月3日	個別	1	ツルハドラッグ・ほかほか亭
一課	7月7日	個別	2	焼肉きんぐ・TSUTAYA
二課	7月11日	個別	2	十和田現代美術館・ レストランベリカン・イオン
一課	7月15日	テイクアウト	2	おやき屋本舗
一課	7月18日	個別	2	夜越山森林公園
二課	7月18日	買物	2	ラセラ
一課	7月19日	個別	1	サンロード青森
二課	7月20日	買物	2	ラセラ
一課	7月22日	外食	2	龍鳳閣
二課	7月23日	買物	1	ラセラ
一課	7月24日	テイクアウト	1	ピザハット
一課	7月25日	個別	1	しまむら・ダイソー
二課	7月26日	個別	1	ラセラ・ミスタードーナツ
二課	7月26日	買物	2	イオンタウン平内
二課	7月27日	買物	2	ラセラ
一課	7月30日	外食	4	ビッグボーイ
二課	7月30日	買物	2	ラセラ
一課	8月9日	外食	1	あすか
一課	8月19日	個別	1	しまむら・ダイソー
二課	8月19日	個別	3	富士見湖パーク・天ぷら四六時中・ イオン
一課	8月22日	個別	2	青龍寺・しまむら
二課	8月22日	個別	3	富士見湖パーク・天ぷら四六時中・ イオン
一課	8月31日	外食	2	龍鳳閣
一課	9月1日	テイクアウト	5	マクドナルド
二課	9月4日	個別	1	イオン
二課	9月11日	個別	1	ラセラ・まるまつ
一課	9月12日	個別	2	スシロー・ダイソー
一課	9月14日	個別	2	クラフトハートトーカイ・ローソン
一課	9月19日	個別	2	イオンシネマ・ロピア
一課	9月20日	個別	1	ザ・グレートヨロズヤ
一課	9月24日	個別	2	ケースデンキ・ブックスモア
一課	9月25日	テイクアウト	1	マクドナルド
二課	9月25日	個別	1	ラセラ・まるまつ
一課	9月26日	個別	2	ワラッセ・サイゼリア
二課	9月26日	個別	3	キッチンひだか・十和田市内
一課	9月29日	テイクアウト	3	シャトレーゼ
一課	10月17日	個別	2	ミスタードーナツ・ブックスモア
一課	10月19日	個別	2	まるまつ・成田本店
二課	10月24日	買物	2	ラセラ
一課	10月25日	外食	2	スターバックス
二課	10月26日	個別	5	平内町立体育館（ひらない秋まつり）
一課	10月28日	個別	2	トイザラス・かつぱ寿司
二課	10月28日	外食	1	まるまつ

二課	10月28日	個別	2	マエダ・レストランクッチーナ・むつ市内
一課	10月29日	個別	2	スシロー・ダイソー
一課	11月8日	テイクアウト	1	ケンタッキー
二課	11月13日	個別	4	浅虫水族館
一課	11月14日	個別	2	ホームセンターサンデー・ニトリ
一課	11月18日	外食	1	あすか
二課	11月20日	買物	1	サンデー・マックスバリュ
一課	11月21日	個別	2	オレンジハート
二課	11月21日	個別	3	青森県立美術館
一課	11月22日	個別	2	スシロー・クラフトハートトーカイ
二課	11月23日	買物	1	ラセラ・ケンタッキー
一課	11月24日	個別	2	焼肉きんぐ・廣田神社
二課	11月24日	個別	1	浅虫水族館
一課	11月26日	個別	2	まるまつ・萬屋
一課	11月26日	テイクアウト	6	ケンタッキー
一課	12月2日	個別	1	しまむら・シーナシーナ
一課	12月11日	個別	1	ダイソー・ブックスモア
一課	12月13日	買物	1	ザ・ビッグ
一課	12月14日	個別	2	ガスト・ローソン
一課	12月19日	個別	3	青森県立美術館
一課	12月19日	外食	1	やまなか家
一課	12月20日	外食	2	びっくりドンキー
一課	12月22日	買物	4	ゆ〜さ浅虫
一課	1月3日	個別	3	雷電宮・マックスバリュ
一課	2月23日	個別	3	いも想い・ローソン
一課	2月24日	個別	3	ハッピードラッグ・ガスト
一課	2月26日	テイクアウト	4	ピザハット
一課	2月27日	個別	1	シーナシーナ
一課	2月28日	テイクアウト	2	びっくりドンキー
一課	3月1日	外食	2	ラーメンくめちゃん・ラセラ
一課	3月5日	テイクアウト	1	ガスト
一課	3月7日	個別	1	萬屋
一課	3月12日	個別	1	しまむら・スシロー
一課	3月20日	個別	2	びっくりドンキー・萬屋
一課	3月21日	外食	2	びっくりドンキー
一課	3月23日	買物	1	マックスバリュ

Ⅱ 短期入所事業しらかば寮

1 概 況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業であるが、今年度は7人（延べ113日）が利用した。

Ⅲ 日中一時支援事業

1 概 況

平内町の地域生活支援事業として、在宅利用者の家庭の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し、見守りや社会に適応するための日常的訓練を行う日中一時支援事業であるが、今年度の利用実績はなかった。

第4-2 障害者支援施設さつき寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業さつき寮

1 概況

令和6年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止・身体拘束等適正化について継続的に取り組むとともに、職員相互のリスクマネジメントの強化を図るため、寮内のリスクマネジメント委員会を中心に、各会議において段階的に対策の検討、周知徹底に取り組んだ。

利用者の状況としては、障害の多様化と高齢に伴う認知機能や身体機能の低下が顕著となり、日常に係る手厚い補助や身体介護、健康管理等の支援度が高まっている。そのため利用者個々の特性に応じた支援に心掛け、さらには体調不良を示す場合には、医療機関等と連携を図り迅速な対応に努めた。

施設入所では退所した利用者が2人、新規契約者が2人となっており、年間をとおして満床を維持した。通所では2人の新規契約者も含め、計6人の利用があった。

一方で、職員の欠員があり人員配置体制加算と重度障害者支援加算を算定することができなくなったため、当初の収入見込みから施設入所事業と生活介護事業合わせて12,732千円減収となった。

日中活動においては、当センター内で、数回の新型コロナウイルス感染症の発生があり、活動停止期間は短く作業の提供を行うことができたものの、林産班においてなめこが発生しなかったことや感染症対応によりクリーニングの受入量が減少したこと等により就労支援事業収入全体では昨年度から363千円の減(3,783千円→3,420千円)となった。

行事においては、日帰り旅行や一泊旅行、単独での買い物等も随時実施するなど、コロナ禍により休止していた事業の再開を進めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した経営基盤の強化

① 入所者60人の定員満床及び生活介護における利用率96%の持続を目標とした安定的収入の維持

施設入所支援では、退所した利用者が2人、新規契約者が2人となっており、満床は維持されているが入院により常に60人が在籍している状況とはならなかった。

生活介護(定員60人)では、6月と1月に各1人新規に利用開始したが、通所者の精神的な理由等により欠席が多く、利用率95%と目標には届かなかった。

(2) 重度・高齢化への対応

① 各種研修会への参加

各職員の希望や過去の研修履歴を参考に、法人内及び外部研修へ計画に沿い可能な限り受講し、受講後には寮会議にて伝達研修を行うなど職員の資質向上に努めた。また、ニーズの高い発達障害支援や高齢者支援に関する研修には、複数人が受講できるように努め、知り得た知識を支援現場の実践で生かせるよう取り組んだ。

② 法人内施設(しらかば寮)実地研修の拡充

重度、高齢者の生活支援に必要な知識・技術の習得を目的に、しらかば寮での実地研修(2人)を行い、職員の養成・スキルアップを図った。

(3) 組織機能の強化

- ① 実践的な内部研修の実施
発達障害支援力強化委員会のコンサルティング事業に職員が参加し、助言を受けた内容の実行に努め、コンサルティを中心に少人数で集まる機会を設け、ABCフレーム活用等について理解を深めるための取組を行った。
- ② ICT・介護機器の導入などによる業務の改善
サイボウズの使用では職員間で共有が図られ、公用車の配車表として活用した。
- (4) 福祉提供サービスの質の維持と向上
 - ① 各種マニュアル・指針の整備及び見直し
職員へ周知が必要なものは(職員必携)、データとしてまとめ共有フォルダで見られるよう整理し、改めて周知を図った。
 - ② 福祉サービス第三者評価受審の実施
評価機関である青森県社会福祉協議会による評価を受審し、結果については県ホームページ等に掲載された。
 - ③ 意思決定支援ガイドラインの策定
人権委員会が中心となり、資料や情報の収集に努めている。現段階においても国から示されるガイドラインのひな型が提示されていないため、策定には至らなかった。
- (5) 生活支援サービスの充実
 - ① レクリエーションや行事等の充実
レクリエーションや行事等は概ね計画どおり実施した。9月に予定していた一泊旅行は、新型コロナウイルス感染により延期され10月に実施した。また、数年ぶりに家族等を交えた行事(さつき交流会)も開催した。
研修受講職員(レク、運動関連等)を中心に新たなレクリエーションや体操等を取り入れた催しを実施した。開所日には健康運動指導士を招き介護予防運動を行った。
 - ② 運動による基礎代謝の向上と筋力の強化
介護予防運動やスポーツ活動等は継続して実施している。その他に個別支援計画に掲げ、身体機能の維持に努めている利用者も多く、日頃からエアロバイクや敷地内の歩行運動を行っている。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	施設入所	生活介護 (通所を含む)
定 員(人)	60	60
令和5年度末現在利用者数(人)	60	60
令和6年度内退所利用者数(人)	2	2
令和6年度内入所利用者数(人)	2	4
令和6年度末現在利用者数(人)	60	62

※施設入所利用者60人のうち5人は生活介護の支給決定がなく、他就労継続支援B型事業所へ通所している。

(2) 年齢別利用者数

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	1	1			2
20～29	6	2	1		9
30～39	12			1	13
40～49	7	4	1		12
50～59	4	2	1	1	8
60～69	9	6		1	16
70～79	3	2			5
80～以上		1			1
合計(人)	42	18	3	3	66
平均年齢(歳)	45.4	53.8	40.3	52.7	48.1

(3) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分別	入所利用者		通所利用者		合 計
	男	女	男	女	
非該当					
区分 1					
区分 2					
区分 3	2			2	4
区分 4	17	3	2		22
区分 5	15	8	1		24
区分 6	8	7		1	16
合計 (人)	42	18	3	3	66

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

② 開所日の設定

休日開所日については、余暇活動（映画上映・カラオケ・調理実習等）を中心に実施した。

③ 班活動

ア ゆとり加工班

加工班から古紙の提供を受け、古紙選別等の軽作業を実施した。作業内容を固定せず流動的に選択できるようにするとともに、個別のスケジュール等を活用し個々の特性に配慮し、集中して活動に取り組めるよう努めた。

イ 加工班

作業意欲はあるものの歩行での移動が難しい利用者に対しては車での移動を行い、できる限り本人が希望する作業班で活動できるよう配慮した。また、年間を通して活動できるよう作業資材の確保に努めるとともに、作業工程を細分化し、

より多くの利用者が積極的に参加できるよう取り組んだ。

ウ 林産班

焚付用薪としいたけの生産・出荷を通して、体力維持と併せて働く喜びを感じられるよう取り組んできた。作業開始前に職員と利用者により作業手順の確認を行った結果、利用者全員が作業工程を理解し、予定数量を出荷することができた。

エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じることで心の安定を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員がやり方を示しながら支援した。

(2) 施設入所支援事業（居住系サービス）の実施状況

① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言、必要な日常生活上の支援を行った。

② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援を行った。

(3) 健康管理

① 健康衛生の向上

ア 医療及び検診状況

利用者の健康管理については2人の看護師を中心に嘱託医等との連携を図り、疾病の予防と治療を適切に実施した。

また、以下による定期検診等を行い、健康状態の維持に努めた。

- ・ 嘱託医診療
精神科（つくしが丘病院）（月2回） 対象者：つくしが丘病院受診者
- ・ 検 診
血液検査、心電図（年2回）、結核検診（年1回） 対象者：全員
- ・ 各癌検診
（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施で本人負担）
- ・ 口腔ケア

歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行った。歯科検診は隔年で実施しており、今回は令和8年度となる。

イ 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群の出現等対応が課題となってきた。特に脂質異常を発症する方が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標に取り組んだ。

なお、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として介護予防運動を行った。

② 緊急時の対応

応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備え、AED（職員は全員AED講習受講済み）は食堂に設置している。また、誤嚥、のどつまり時対応用として、気道閉塞時フローチャートを食堂、支援員室に掲示し、口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を食堂に常備し緊急時の対応に備えた。

③ 感染症予防対策

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、手洗い、うがい、手指消毒を継続し、毎食後に除菌ウェットタオルによる消毒やドアノブ、手すり等の高頻度接触面の環境整備、個人防護服の適切な着脱トレーニングを行った。

新型コロナウイルス感染症に関しては9月に利用者12人罹患し2週間ほど、2月に1人罹患し1週間ほどの感染対策を行い、感染拡大を押さえ収束することができた。インフルエンザに関しては、予防対策を徹底したことで利用者の罹患者は出なかった。

感染症を持ち込まない、広げない対策として職員の健康観察（出勤時検温等）を日常的に行い、手指衛生・マスク着用を励行した。各感染症発生に備えマニュアルの整備・見直しを行うとともに、嘔吐物処理セット、個人防護具や手指消毒、環境整備用除菌ウェットタオル、検査キット等の備品を確保した。

感染予防、重症化予防のためインフルエンザワクチンの接種を行った。新型コロナウイルスワクチンについては希望者に対して接種を行った。

④ 各癌検診、結核検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
大腸癌	2人	再検査し異常なし
子宮癌	1人	手術
乳 癌	1人	精査し異常なし
結 核	3人	再検査し異常なし

⑤ 通院・服薬者状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内 科	36	268	23
精神科	44	603	44
歯 科	14	58	0
皮膚科	9	40	4
外 科	1	9	0
整形外科	7	27	2
眼 科	4	10	0
泌尿器科	5	38	2
脳神経外科	1	2	0
脳神経内科	1	2	0
循環器科	1	1	0
糖尿病外来	1	6	1
総合診療	1	4	0
歯科口腔外科	1	2	0
麻酔科	1	1	0
耳鼻科	0	0	0
婦人科	1	8	0
合 計	128	1,079	76

⑥ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病 名
内科	1	29	症候性てんかん疑い

精神科	1	87	ADHD
産婦人科	1	11	子宮体がん
合 計	3	127	

⑦ 肥満状況

内 訳	男	女	合計
18.5 未満（やせ）	1	2	3
18.5 以上～25 未満（正常）	35	12	47
25 以上～30 未満（肥満 1）	5	4	9
30 以上～35 未満（肥満 2）	0	0	0
35 以上（肥満 3）	1	0	1
合計（人）	42	18	60

※BMI の数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

(4) 利用者の権利擁護の推進

人権委員会は年 12 回開催し、苦情解決委員会や虐待防止委員会（アクシデント報告や SDS チェックリスト等の確認）及び身体拘束等適正化委員会、研修や人権週間等について検討し、議事録は全職員に周知した。

苦情相談は、本人からの申し出と意見箱から、毎月 1 回、第三者委員が受け付け、その後、苦情解決責任者による相談体制とした。新型コロナウイルス感染症対策のため 3 回は中止となった。

苦情解決協議会（虐待防止協議会）については 10 月と 2 月、第三者委員や利用者代表、保護者代表が参画して開催した。

苦情内容	件 数
サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	0
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	1
被害／損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0
病気／怪我／医療面	0
その他(上記以外のもの)	0
合 計	1

利用者の自己決定を尊重した「意思決定支援」については、利用者参加の下、個別支援計画を作成した。また、「障害者の意思決定支援」研修を開催して取り組んだ。

(5) 地域交流

令和 6 年度地域交流は、小中学校・高等学校等との交流については引き続き新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。地域への奉仕活動については、感染症対策を行った上で 4 月に小豆沢町内会との合同清掃活動を行った。11 月に開催された平内町民文化祭には、利用者が創作した作品を提供し展示し、数年ぶりに利用者也参加した。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、第一段階として支援会議で検討し、その後さつき寮リスクマネジメント委員会でも再度検討することで、より

深く検証した内容を現場へフィードバックし、利用者の事故防止に努めた。
 <アクシデントレポートの提出状況>

事故内容		件数
病院受診や 入院（アクシデント LV3以上）	骨折	0
	裂傷	0
観察及び 寮内処置等 （アクシデントLV 2以下）	（利用者の怪我等）転倒・転落・衝突	31
	打撲・裂傷・擦り傷・出血・火傷等	16
	誤嚥・喉詰まり	0
	（服薬関係） 誤薬・服薬忘れ・落薬・薬持たせ忘れ	8
	（その他・利用者関係） 他害・粗暴行為・器物破損	22
	（その他・職員関係等） 忘れ物・利用者に関わる物品や器物の故障 施錠忘れ・機械の操作ミス等	11
合 計		88

（7）家族との連携強化

① 家族への情報提供の充実

各種面会の実施や中止については、感染状況を踏まえて随時、通知を行った。また、さつき寮通信を年4回発行し、行事及び日中活動や生活の様子を写真や文章で伝えた。毎月ケース担当職員から保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

② 家族等との交流

居室での個別面会や旧館での面会等、希望に応じた面会を行った。また、さつき交流会を開催し家族と共に楽しむ機会を設けた。

（8）職員研修

なつどまり内での学習会やしらかば寮での実地研修、法人内研修、各種外部研修（オンライン含む）等へ参加するとともに、昨年に引き続き「サポーターズカレッジ」（Web講座）を活用し、施設職員として必要な知識を習得した。

強度行動障害支援者養成研修では基礎研修に2人、実践研修に1人が参加した。

また、なつどまり研究発表会において、さつき寮の研究事例を発表した。

（9）行事の実施状況

令和6年	
4月23日	利用者健康診断
4月26日	合同清掃奉仕活動（小豆沢地区ごみ拾い）
4月27日	（開所日）花見会
5月3日	ゴールデンウィークお楽しみ会
5月9日	結核検診
5月11日	（開所日）カラオケ大会
5月14日	消防訓練
5月25日	（開所日）レクリエーション大会（ナンバーストライク等）
6月8日	（開所日）映画観賞会

6月15日	(開所日) 大掃除
7月6日	(開所日) 七夕飾り
7月9日	利用者日帰り旅行 (五所川原)
7月17日	避難訓練 (炊き出し)
7月19日	花火会
8月3日	(開所日) 納涼会
8月16日	お楽しみ会
8月24日	(開所日) 軽食クッキング (ホットケーキ)
8月25日	青森県障害者スポーツ大会 (陸上・フライングディスク)
9月21日	(開所日) カラオケ大会
9月28日	(開所日) 映画観賞会
10月3日	利用者健康診断
10月5日	さつき交流会
10月8日	利用者一泊旅行 (鯨ヶ沢)
10月17日	利用者乳がん検診
10月19日	(開所日) 紅葉狩り、カラオケ大会
10月29日	ハロウィンイベント
11月9日	(開所日) 風船バレー
11月11日	インフルエンザ予防接種
11月19日	忘年会 (女子)
11月22日	忘年会 (男子)
11月30日	(開所日) 軽食クッキング (たこ焼き)
12月14日	(開所日) 大掃除
12月20日	クリスマス会
12月29日	レクリエーション (ボウリング、エイエイオー体操等)
令和7年	
1月4日	(開所日) 新年会
1月18日	(開所日) 紅白歌合戦鑑賞会
2月1日	(開所日) 節分
2月22日	(開所日) マジックショー
3月1日	(開所日) 軽食クッキング (クレープ)
3月7日	慰労会
3月8日	(開所日) 介護予防体操
3月15日	(開所日) 映画観賞会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」に基づく工賃を支給した。(10月・4月は一時金を支給)

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上期一時金
生活介護 総工賃(円)	99,120	146,260	141,770	123,600	115,930	34,260	117,920	146,600

支給者数(人)	59	59	60	60	60	60	60	62
項目／月	11月	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合 計	月1人当 たり平均
生活介護 総工賃(円)	121,830	138,720	137,560	77,870	88,130	448,780	1,938,350	2,283
支給者数(人)	60	61	61	62	62	63	849	

Ⅱ 短期入所事業さつき寮

1 概 況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行った。

2 事業の実施状況

令和6年度は1人（2回、延べ5日）の利用があった。

Ⅲ 相談支援事業所なつどまり

1 概 況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施した。令和6年度の新規契約者数は20件あり、最大で計243件となった。

利用者の置かれている状況や環境等に応じ、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供した。また、新たな地域資源の開拓を行うとともに、各市町村等との連携に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 関係団体との連携強化の継続

感染症予防に配慮しながら、関係団体や事業所等と直接対話で情報共有を図り、利用者支援に関する会議等においても、従来どおり協議が重ねられ継続した連携に努めた。

(2) 利用者の苦情や要望に対する相談体制

利用者との面談・アセスメント等では話しやすい雰囲気づくりに心掛け、より良いサービスに繋がるよう必要な助言等による対応に努めた。

また、感染予防対策を講じ、可能な限り自宅または事業所へ訪問し、本人や家族の意見に基づいた、意向や選択に沿う計画の提案・作成に努めた。

(3) 年間における黒字収支の維持

当初掲げた年間の計画及びモニタリングの件数に比べ最終実績の件数が増え増収となった（計画：当初140件→実績163件、モニ：当初385件→実績450件）。また、支出においても予算精査に努めたことで黒字収支の維持に繋がった。

3 職員の状況 ※()はさつき寮長兼務

職 名	管理者	相談支援専門員		合 計
		主任支援員	支援員	
職員数	(1)	1	1	2 (1)

4 事業の実施状況 (令和7年3月31日時点)

(1) 契約及び支援(請求)件数

事業名	新規 契約件数	最大 契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング 報告書
①特定相談支援事業	20 件	238 件	158 件	445 件
②障害児相談支援事業	0 件	5 件	5 件	5 件

(2) 法人内外事業所別利用件数

内 訳	しらかば寮	さつき寮 (通所含む)	同法人事業所	他法人事業所	その他	合 計
平内町 (委託)	4	11	26	36	2	79
他市町村	68	48	25	17	0	158

(3) 障害種別件数 (重複あり)

内 訳	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害(児) ※手帳未所持	重症心身障害
障害者	238	216	38	47		0
障害児	5	3	3	0	2	0
合 計	243	219	41	47	2	0

(4) 年齢別件数

年齢 / 性別	男性	女性	合計
～高校在学	4	1	5
高卒～	31	11	42
30～39	31	8	39
40～49	25	16	41
50～59	17	15	32
60～69	29	19	48
70～	12	10	22
80～	1	7	8
計	150	87	237
平均年齢	43.8	52.8	47.1
最高年齢	85	91	
最低年齢	6	11	

第5 青森県長寿社振興センター

1 概 況

青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を念頭に、「生涯現役で活躍できる社会づくり」、「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」を目指し安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現に向け、生きがいつくり、健康づくり及び仲間づくりに関する事業を展開した。

2 重点事項の実施状況

(1) あおもりシニアフェスティバル～青森県版ねりんピック～「美術展」の開催に向けた取組

高齢者の生きがいと健康づくりを推進し、高齢者の活発な社会活動の振興を図るため、青森県版ねりんピック「美術展」の令和7年度開催を目指し、昨年度から他県の美術展を視察し、情報収集等を行なった。

美術展会場の選定、委託業者の業務内容や準備費用等の精査を行い、県担当課と美術展開催について協議し、開催が認められたため、令和7年度初開催となる。

(2) 長寿社会振興センター事業の広報及びPRの強化

各事業開始に合わせ、新聞折り込みを活用してチラシの配布を行なった。5月からスタートした「青森シニアカレッジ」では令和5年度から20人以上の新規受講者の獲得に繋がった。

また、あおもりシニアフェスティバルの事業周知及び参加者増に向けて、新聞折り込みを活用してチラシ配布を行ない、文化イベントでは多数の参加者が見られ、スポーツイベントでは令和5年度より100人以上の参加申込増となった。

冬季スポーツイベント（カーリング、スキー）については、参加者増に向けてチラシ配布先の精査を行なったことで、新規参加者の獲得に繋がった。

(3) 自主事業の拡充

当センターが組織化した「あすなろ友の会」（県内6支部）の会員が高齢化の影響等により減少してきていることから、定期的に各支部を訪問して活動支援を行なった。

また、あすなろ友の会の会員募集チラシを作成し、関係機関等へ配布し会員募集を行なったところ、新規会員の獲得につながった。

介護予防事業については、講師依頼増に向けて生涯学習フェア、青森県レクリエーション大会に出展し、当センター事業及び介護予防事業のPRを行なった。

3 職員の状況

職 名	所 長 (専務理事兼務)	副所長	事務員	計
職員数 (人)	1	1	6	8

4 職員研修

職員の資質向上を図るため、一般財団法人長寿開発センター及び関係各機関の開催する研修会に参加した。

5 事業の実施状況

(1) 全国健康福祉祭・あおもりシニアフェスティバル開催事業

① 全国健康福祉祭派遣事業

鳥取県を会場に、全国から参加する高齢者との交流や様々な世代間のふれあいを通して、笑顔広がる地域共生社会の実現を目指し、開催県へ青森県選手団を派遣した。

会 期	令和6年10月19日（土）～22日（火） ※本県選手団は前泊のため、18日（金）出発
開 催 地	鳥取県（鳥取市ほか）
派遣種目等	スポーツ交流大会（10種目）、ふれあいスポーツ交流大会（4種目）、文化交流大会（2種目）、その他（美術展）
派遣人数	94人（選手89人、事務局5人）

② 第25回あおもりシニアフェスティバル開催事業

県内高齢者のスポーツ、文化活動等の祭典として、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝ける長寿社会づくりを目的として開催した。

ア 文化イベント

会 期	令和6年9月7日（土）
開 催 地	県民福祉プラザ
内 容 等	総合開会式、記念公演（青森県警察音楽隊）、各種展示コーナー、キッチンカー開設等
来場者数	約1,000人

イ スポーツイベント（15種目）開催内容

開 催 日	令和6年9月15日（日）、21日（土）、22日（日）、28日（土）、29日（日）、10月6日（月）
会 場	新青森県総合運動公園（マエダアリーナ）、青森市スポーツ会館（オカでんアリーナ）、合浦公園、八甲田パノラマパークゴルフ場（十和田市）、小渡平公園（五戸町）
開催内容	ラージボール卓球、テニス、ゲートボール、弓道、剣道、太極拳、なぎなた、グラウンド・ゴルフ、水泳、バウンドテニス、パークゴルフ、ソフトバレーボール ※ペタンク、ターゲット・バードゴルフ、ウォークラリー競技の3種目は荒天のため中止。
参加人数	948人（申込人数1,134人）

ウ 冬季スポーツイベント

開 催 日	令和6年12月15日（金）、令和7年1月25日（土）
会 場	青森市スポーツ会館（カーリング）、大鰐温泉スキー場（スキー）
開催内容	第13回カーリング交流大会、第13回スキー交流大会
参加人数	58人

（2）長寿な生活調査・発信事業

高齢者等の生活習慣・生活スタイル等を調査・収集した結果を紹介・広報し、県民の健康意識の向上に役立てていることを目的として事業を実施した。

① 編集委員会

機関誌「あすなろ倶楽部」の発行にあたり、調査、掲載内容等について検討・調整するための編集委員会を開催した。

開催日	令和6年4月23日（火）
会場	県民福祉プラザ
開催内容	機関誌「あすなる倶楽部」編集委員の決定、掲載内容等についての検討、意見交換等
参加人数	13人

② シニアライター養成研修会

シニアライターを育成し、本県における長寿者（100歳以上高齢者等）の紹介、及びその生活習慣・生活スタイル等を調査・収集し、広く県民に紹介・広報することにより、県民の健康意識の向上に役立てることを目的に開催した。

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
5月10日（金）	青森市	県民福祉プラザ	8人
5月13日（月）	弘前市	弘前市民会館	6人
5月23日（木）	五所川原市	五所川原市中央公民館	5人
5月24日（金）	むつ市	むつ来さまい館	8人
5月28日（火）	八戸市	八戸市福祉公民館	3人

③ 県民への発信・広報等

ア 機関誌「あすなる倶楽部」の発行

県民の健康意識の向上に役立てるため、シニアライター等が調査・収集した情報及び県民へ向けた暮らしに関する情報等を掲載・発行した。

発行回数	年4回（6月、9月、12月、3月）
発行部数	各回4,000部
内 容	シニアライターが調査・収集した長寿者の生活スタイル等の情報及び関係機関への情報発信等

イ 広報活動

ホームページについては最新の情報を提供するため、事業の実施・募集及び実施内容をその都度更新し、分かりやすい情報掲載に努めた。

（3）青森シニアカレッジ運営

各種講座の受講等の活動を通して生きがいづくり、社会参加を促進するとともに、地域活動の担い手となる人材を育成することにより、高齢者の社会活動の振興を図ることを目的として開催した。

また、遠方で受講できない高齢者を対象に県内各地でサテライト講座を実施した。

① 通学総合コース

開催場所	県民福祉プラザ
開催回数	18回
受講者数	82人（総合コース）
内 容	一般教養、健康と生活、地域の歴史・文化、社会見学等

② 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

放送媒体	RAB青森放送（ラジオ）
放送回数	年間12回（毎月最終土曜日午前6時30分からの30分間）
内 容	生きがいづくりに関わる内容をラジオ放送で県内へ発信した。テキストを作成し学習意欲の向上に努めた。
受講者数	20人

③ サテライト講座

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
8月21日（月）	むつ市	むつ来さまい館	17人
8月29日（火）	むつ市	下北観光物産館まさかりプラザ	22人
2月6日（金）	青森市	大野市民センター	5人
2月21日（金）	弘前市	弘前市民会館	27人
3月13日（木）	青森市	大野市民センター	19人
内 容	高齢者を対象としたグループワーク形式の交通安全教室（青森市（2回）、むつ市（2回）） ニュースポーツ体験（弘前市）		

（4）仲間づくり事業（自主事業）

① あすなろ友の会支援事業

高齢者自主活動組織「あすなろ友の会（県内6支部 会員数350人）」に対し、各支部の活動支援及び情報提供等を行なった。

ア あすなろ友の会幹事会への支援

年度における幹事会事業や活動支援内容に関する意見集約等を行うことを目的に幹事会を開催した。

開催日	令和6年6月5日（水）
会場	県民福祉プラザ
開催内容	幹事会事業開催の協議（游学の旅）、友の会会則の改正等
参加人数	7人

イ あすなろ游学の旅への支援

毎年度、各支部持ち回りで企画・運営している全支部合同の交流会「游学の旅」を開催した。

実施日	令和6年11月13日（木）～14日（金）1泊2日
交流会場	深浦観光ホテル
参加人数	17人

ウ 各支部活動の支援

各支部の活動において、必要に応じて当センターから職員を派遣し健康教室やニュースポーツ体験を実施した。

（5）介護予防事業

市町から事業受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態を予防することを目的として実施した。

委託先	五所川原市、大鰐町
開催回数	五所川原市28回、大鰐町25回
内 容	運動機能の向上、栄養指導、口腔ケア、認知症予防、脳トレ等

第6 青森県発達障がい者支援センター

1 概 況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し19年目を迎えた。令和5年度より職員5人配置体制となり（令和4年度までは4人配置）となり、当センターの管轄地域である東青地域及び下北地域を対象とした事業に加え、県内全域を対象とした事業も複数実施した。発達障がい者支援センター運営事業の4つの柱（必須事業）である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」のほか、当センター独自の事業として、地域の精神科医師による「医療相談」及び、当センター事業で養成した「ペアレントメンターによる傾聴事業」、言語聴覚士による「ことばの発達に関する相談会」を実施した。

また、「青森県発達障がい者支援体制整備事業」について、各事業計画に基づき全ての事業を実施した。

令和2年度より開始している「青森県発達障がい専門医療機関初診待機解消モデル事業」は5年目を迎え、引き続き県内複数の医療機関、自治体等と協働し、発達障がい児の早期発見、早期介入に向けた取組を行った。東青地域・下北地域に居住している未就学児を対象とし、月6ケース、年間72人の申込を受けた。

令和3年度、弘前大学及び青森県と協働で作成し、当センターが発行した「青森県子どもの発達支援ガイドブック」（令和4年3月29日刊行）は、普及啓発及び地域での定着に向けて、毎年本ガイドブックの監修者である弘前大学齊藤まなぶ教授を講師に招聘し、県内全地域の支援者を対象に「青森県子どもの発達支援ガイドブック活用研修会」を開催している。令和6年度は、本ガイドブックの主旨説明に加え、県内で本ガイドブックを活用し実践を展開している3つの機関（教育・福祉・発達障がい者支援センター）から活用方法や効果等についての実践報告を含めた。地域での活用についてよりイメージが明確になり、理解を深めることができた。現場での活用を開始したい旨の意見を多数受けた他、より効果的に支援に活かせるよう、これまでの活用方法を見直し、活用を継続していきたいなどの評価を受けた。

その他、令和5年度より当県の発達障がい児者支援体制整備推進を目指した新たな取組として開始した「青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート導入研修会」事業及び「ペアレント・トレーニング指導者養成研修会」事業について、「青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート導入研修会」では、県内全ての自治体を対象に、年2回シリーズで研修会を開催した。既にチェックシートを乳幼児健診で導入している2つの自治体からの実践報告を含めた研修会を企画し、受講した多くの自治体から、「取組の参考になった」「乳幼児健診で重要なツールであることを再確認できた」等の意見を多数受けた。「ペアレント・トレーニング指導者養成研修会」では、県内全地域の支援者を対象に実施した。本事業を県内全地域に定着することを目的に、本研修会受講機関の地域での取組（事業進捗状況）の確認（把握）を行い、事後フォローを行った。その他、年2回、当センターでモデル事業として参加保護者を募り「ペアレント・トレーニング事業」を実践した。本実践事業には、ペアレント・トレーニング指導者養成研修会を受講した支援者を対象に、「実践技術習得研修」として位置づけ、実際に進行や保護者役を担ってもらうなど、全プログラムを体験的に学び、地域での実践につながるよう人材育成に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 地域の発達障がい児者及びその家族の権利擁護、意思決定及び個人情報保護を尊重した支援の充実

① 意思決定を重視した支援の強化

ア 全ての相談者に対して、各事業の詳細な説明や見通しなどを伝え、同意を得た上で具体的な支援に着手するなど、インフォームドコンセントに基づく相談支援を徹底した。

イ アセスメント結果等、エビデンスに基づく情報提供、説明を行い、相談者からの質問、問合せ等に対して、都度説明し、支援の取組に責任を持って対応した。

② 個人情報保護の徹底

ア 第三者と情報を共有することが必要な際、事前に個人情報同意書を必ず得ることを徹底した。

イ 相談者記録等を保管する書庫の管理（施錠・鍵の管理）、書類及びデータの取扱い等、対応策をまとめ、職員間で徹底した。

ウ 個人情報開示請求の実績はなかったが、要望を受けた際の手続きについて、マニュアルを設け、職員間で共有している。

エ 相談者との多重関係の影響について職員間で確認し、専門性の一つとして意識が定着する等の取組を行った。

(2) 他機関との協働及びネットワーク構築

① 地域との協働及びネットワーク構築

ア-1 地域連絡協議会：1回開催。

発達障がい児の「早期発見・早期介入」をテーマとし、参加機関を東青地区及び下北地区の母子保健・児童相談所、青森地区ペアレントメンター等として実施した。各地域の取組や課題等について、グループワークや全体発表等を通して共有するとともに、当センターの事業内容、取組の詳細について報告を行った。6機関の参加があった。

ア-2 青森市内障がい児通所支援事業所との情報交換会：1回開催。

青森市内障がい児通所支援事業所の状況について把握すること、地域の関係機関のネットワーク構築を目的に開催し、19機関の参加があった。各事業所の取組や課題等を共有するとともに、当センターの事業内容、取組の詳細について報告を行った。

イ 医療相談：15件実施。

児童から成人まで幅広い年齢層の相談、利用があった。

ウ ペアレントメンターによる傾聴事業：4件実施。

児童から成人まで幅広い年齢層のお子さんに関する相談があった。

(3) 県内の他の発達障がい者支援センターとの連携による地域支援体制整備の推進

① 県内3センター及び県障害福祉課との情報共有及び話し合いを適時実施した。

ア 県内3センター及び障害福祉課情報交換会を年1回実施

今年度の各センターの事業計画について確認を行った。

イ 北東北発達障がい者支援センター研修会及び情報交換会

主催担当センターであった、青森県発達障がい者支援センター「わかば」の事業運営について、研修会テーマの提案、講師との連絡調整等のサポートを積極的に行った。

ウ 当センター主催事業の紹介

当センター主催事業「医療相談」、及び、研修事業等を他センターにも紹介し、必要に応じて活用、参加いただくなど、連携体制を構築しながら事業展開を実施した。

(4) 地域の関係機関及び関係施設等の職員の人材育成を通じた地域の拠点作り

- ① 当センター主催または関係機関との共催での研修会を計 47 回開催（述べ参加人数 1,059 人）した。実施した主な事業は下記のとおりである。

ア	アセスメント（適応行動及び感覚面の評価）に関する研修会	(54 人受講)
イ	青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート導入研修会	(123 人受講)
ウ	CARE プログラム研修会	(24 人受講)
エ	発達障がい児者支援公開講座	(101 人受講)
オ	かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会	(66 人受講)
	※うち、医師 7 人受講	
カ	ペアレント・トレーニング指導者養成研修会	(48 人受講)
キ	青森県子どもの発達支援ガイドブック活用研修会	(112 人受講)
ク	ペアレント・トレーニングモデル事業（人材育成事業）	(支援者 6 人受講)
ケ	ペアレント・プログラム事業	(支援者 22 人受講)

- ② 講師活動を 31 回（延参加人数 1,382 人）実施した。

司法・教育・福祉・労働・保育関係等、多様な機関のニーズに対応した。

- ③ 機関訪問支援を 20 回実施した。

保育所・小学校・高等学校・児童発達支援センター・放課後等デイサービス等、多様な機関のニーズに対応した。

- ④ 医療従事者を主な対象とした研修会を 1 回実施した（66 人受講※内、医師 7 人受講）。県内医師（小児科医・精神科）と協働し、県内医師等医療従事者を主な受講対象者とした発達障害に関する最新の知見、施策等を発信した。

(5) 地域住民への発達障害についての理解と普及啓発

- ① 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間

ア 弘前大学大学院保健学研究科・青森県自閉症協会・青森県と共催、及び青森県精神保健福祉協会・青森市後援の事業体制で、各関係機関と協働しながら、発達障害に関する講演会やパネル展示、Word イラストレーター Konomi さんの作品展示等の催しを実施した。76 人の受講があった。

イ ペアレントメンターによる傾聴事業では、1 人の保護者の利用があった。

- (6) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害支援室、発達障害情報支援センター、全国の発達障害者支援センター（特に北東北 3 県発達障害者支援センター）等との情報交換及び連携

- ① 全国発達障害者支援センター連絡協議会（京都市で開催）へ職員 1 人が参加し、発達障害児者支援施策に関する国の動きや、最新の知見について学ぶとともに、全国の発達障害者支援センターと情報交換を実施した。

- ② 全国発達障害者支援センター連絡協議会役員（副会長）として、年間を通して、役員会及び、厚生労働省・こども家庭庁・文部科学省・発達障害情報・支援センター・特別支援教育推進センター等で構成された懇親会への参加を行い、施策等についての最新の情報を学ぶとともに、発達障害児者支援に必要なと思われる事業等の導入について、意見を述べる等の取組を行った。

- ③ 国立障害者リハビリテーションセンター・発達障害情報・支援センター主催「発達障害者支援センター職員研修会」及び「発達障害者支援者向けセミナー」で講師

を務めた他、他県発達障害者支援センター（佐賀県・高知県）が主催する家族支援研修会「ペアレントメンター養成講座」へ講師及びインストラクターとして参加協力を行う等、全国の発達障害者支援センター職員及び地域支援者の人材育成に務めた。

- ④ 北東北3県発達障害者支援センター情報交換会（青森県で開催）へ職員4人、北海道・東北ブロック発達障害者支援センター情報交換会（WEB開催）へ全職員が参加した。各地域の取組や課題等について情報共有を行い、相互理解及びネットワーク構築を深めた。

3 職員の状況

職 名	所 長	支援員	計
職員数 (人)	1	4	5

社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士、TEACCH@認定上級コンサルタントの資格を有している。

4 事業の実施状況

事業内容		実 績	
① 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援		実支援人員	446 人
		延支援件数	1,851 件
		心理学的判定	82 件
② 発達障害児（者）に対する就労支援		実支援人員	55 人
		延支援件数	286 件
③ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	ア センター主催又は共催で企画した研修	実 施 回 数	47 回
		延参加人数	1,059 人
	イ 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実 施 回 数	31 回
		延参加人数	1,382 人
	ウ 教育関係者との合同研修会	実 施 回 数	7 回
		延参加人数	218 人
④ 関係施設・関係機関等の連携	ア 連絡協議会開催回数	実 施 回 数	2 回
	イ 調整会議	実 施 回 数	23 回
	ウ 機関コンサルテーション	実 施 回 数	20 回
	エ 障害者総合福祉法第 89 条協議会等への参加状況	参 加 回 数	9 回
	オ 他の協議会への参加状況	参 加 回 数	9 回
⑤ 地域住民等に対する普及啓発	ホームページの更新	実 施 回 数	11 回
	地域住民向け講演会の開催等	実 施 回 数	9 回
		延参加人数	276 人
⑥ 職員の研修派遣状況		参 加 回 数	86 回

第7 ライフサポートあおば

1 概 況

「共感・協働・共生」の理念に基づき、青森市内やその近郊にお住いの知的障害や発達障害、またはそれらが心配される2歳から18歳までの児童を主な対象として、障害児通所支援（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問支援事業）と青森市からの委託事業（障害児等療育支援事業）等を通じ、発達支援・家族支援・地域支援を実施した。

令和6年度からは「児童発達支援センター」の認可を受け、他センターと協働し、「青森市発達支援連絡会」の立ち上げ、青森市障がい者自立支援協議会障がい児部会に参画するなど、青森市内において中核的な役割を担う体制整備を行った。

保護者懇談会を年2回開催（土曜日・平日）、ペアレント・トレーニングを2グループ開催するなど、保護者支援に努めた。

障害児等療育支援事業や保育所等訪問支援による保育園巡回、あおもり親子はぐくみプラザの相談支援員、放課後児童会への巡回、各種研修機会を通して、行政・教育・子育て施策との連携が強化された。

2 重点事項の実施状況

（1）安定した経営基盤の強化

① 所属単位の黒字化（収支差額のプラス）

4半期に1回、加算取得状況等の確認及び目標について共有した。構築物（ロードヒーティング工事）や車両運搬具（送迎車両の入れ替え）の支出があったが、所属単位ではプラス収支となった。

② 児童発達支援センターの運営

児童発達支援センターを軌道に乗せることをライフサポートあおば全体の課題と捉え、①給食提供、②医療との連携、③中核的機能について、定期的に支援会議・運営会議等で協議を重ね、安定化させた。

③ 情報の発信・共有

指定障害児相談支援事業所へFAXするなど、利用者募集に努めた。そのほか、講演等の際に事業所をPRするなど、事業所情報の発信に努めた。

（2）利用者主体の支援

① 総合的な支援プログラムの作成

5領域（①健康・生活、②運動・感覚、③認知・行動、④言語・コミュニケーション、⑤人間関係・社会性）をすべて含めた個別支援計画を作成し、計画に基づいた総合的な支援を提供した。

また、5領域とのつながりを明確化した事業所の支援内容や家族支援、移行支援などの内容を示す支援プログラムを作成し、公表した。

② 未就学児への支援

児童発達支援センターと保育所等訪問支援を併用している児童の情報共有のため、シフトや報告様式の見直しし、業務効率化・標準化を図った。

③ 成人期支援事業所等との連携

八甲学園サンハウスと連携し、児童・保護者の見学会を実施した。

青森障害者就業・生活支援センターすこやかより就労アセスメントの情報を確認するなど、事業所の支援に活かした。

④ 保護者支援の充実

保護者懇談会を7～9月開催と10～12月開催の年間2グループのペアレント・トレーニングを実施した。

(3) 地域との連携・協働体制の構築

① 地域防災関係の構築

地域との連携の取組の一つとして、町会長や周辺住民、避難場所である学校への挨拶周りを実施した。

② 地域の福祉向上のための取組

町内会へのあいさつ回り、町内会イベント(ゴミ拾い)への参加、青森市PTA連合会・青森地区防犯協会の「こども110番連絡所」への登録を行った。

3 職員の状況

職 名	所 長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計
職員数 (人)	1	1	1	3	14	20

4 職員研修

(1) 内部研修

以下のとおり、職員向け内部研修を開催した。

研修名	日 程	参加者数
新任転任職員研修	4月13日	3人
支援技術研修①	4月16日	4人
個別支援計画作成研修	4月23日	3人
支援技術研修②	5月21日	4人
虐待防止研修	6月	20人
感染症対策研修	6月6日	3人
支援技術研修③	6月18日	5人
支援技術研修④	6月26日	4人
新任職員研修	7月17日	2人
リスクマネジメント研修	7月17日	4人
虐待防止研修	9月	23人
防災研修	9月18日	3人
B C P研修	12月12日	3人

(2) 外部研修

派遣された研修については、復命書作成ののち、毎月の支援会議にて伝達を行った。

研修名	日 程	参加者数
ペアレント・プログラム in あおもり	5月11日～ 9月21日	1人
強度行動障害支援者養成研修指導者研修 (基礎研修・実践研修)	6月10・11日 6月13・14日	1人
青森市自閉症児者を持つ親の会 自閉症支援者講座	6月14日～ 11月8日	1人

青森県知的障害者福祉協会 児童発達支援部会研修	7月8日	3人
ペアレント・トレーニング指導者養成研修会	7月18・19日	2人
(株)青森ソーシャルサポート 青森県相談支援従事者研修（初任者研修）	8月8日～9日 ※講義のみ	1人
青森県自閉症支援研究会 自閉症支援セミナー基礎コース①	8月17日	4人
交通安全管理者講習	8月20日	1人
強度行動障害中核的支援人材研修 指導者養成研修（サブトレーナー）	8月26日～ 2月10日	1人
サービス管理責任者研修指導者養成研修 （意思決定支援）	9月10日	1人
(株)ピラミッド教育コンサルタントジャパン P E C S レベル1 ワークショップ	9月18～26日 10月15～23日	2人 1人
青森県自閉症支援研究会 自閉症支援者セミナー基礎コース②	9月28日	4人
一般社団法人青い森学館 青森県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	10月30・31日	3人
青森県自閉症支援研究会 自閉症支援者セミナー基礎コース③	11月2日	5人
青森県知的障害者福祉協会 新任職員研修	11月12日	2人
救急救命講習会	11月13日 12月11日	3人 5人
一般社団法人青い森学館 青森県サービス管理責任者等研修（基礎研修）	11月23・24日	2人
青森県知的障害者福祉協会 中堅職員研修	12月5日	3人
青森県障害者虐待防止・権利擁護研修会	2月4日	3人
青森県自閉症支援研究会 自閉症支援者セミナー（実務者コース）	1月22日 2月8・9日	3人
一般社団法人青い森学館 青森県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	2月20・21日	2人

※法人内主催実施研修を除いて記載

5 行 事

行事名	実施日	内 容
運営会議	毎 月	各種課題やリスク回避の検討（リモート開催）
HP・ブログ更新	随 時	活動内容報告。
苦情解決委員会	10月23日	苦情等解決第三者委員を交えた情報共有・意見交換

虐待防止委員会 身体拘束適正化委員会	10月23日	虐待防止委員との情報共有・意見交換
広報誌発行	8月13日 12月16日 3月18日	「あおばだより」第38号 「あおばだより」第39号 「あおばだより」第40号
ペアレント・ トレーニング	7月6日 10月2日 7月20日 10月16日 8月3日 10月29日 8月17日 11月14日 8月31日 11月27日 9月14日 12月3日	第1回 オリエンテーション～子どもの行動を3つにわけ～ 第2回 好ましい行動へ肯定的な注目を与える～注目の与え方～ 第3回 好ましくない行動を減らす①～上手な無視のしかた～ 第4回 好ましくない行動を減らす②～無視とほめるの組み合わせ～ 第5回 子どもの協力を増やす方法～効果的な指示の出し方～ 第6回 振り返り
事業所間交流	8月2日 9月10日 1月14日	共同生活援助事業サンハウス見学（児童） 8人 共同生活援助事業サンハウス見学（保護者） 8人 共同生活援助事業おくのハウス見学（児童） 2人
合同研究発表会	12月18日	2事例発表

6 健康管理

毎朝の健康チェック・アルコールチェックを実施。職場環境改善委員会を開催し、職場における疑問・不満について確認・整理した。

7 安全・防災管理

- (1) 感染症・災害発生時の業務継続に向けた計画（BCP）の見直し（年2回以上）

5月、8月、11月、2月に感染症委員会を実施し、感染症マニュアル、感染症BCPの見直し検討した。5月・9月に自然災害BCPの見直しを行った。

- (2) リスクマネジメントについての検討機会を設定（月1回以上）

毎月の支援会議・運営会議にて未然防止策・再発防止策の検討を行った。

- (3) 自主点検・法定点検

各事業所にて担当者が使用物品（建物・支援備品・消防設備・車両等）の危険箇所自主点検を月1回行い、発見箇所の修繕及び修繕困難箇所を報告した。

消防設備の法定点検は、設備業者に委託し、年2回実施した。

- (4) 月1回の避難訓練実施

月	訓練内容	月	訓練内容
4月	火災発生	10月	火災発生
5月	感染症	11月	感染症
6月	風水害被害	12月	地震発生
7月	地震発生	1月	不審者侵入
8月	火災発生	2月	地震発生

9月	風水害被害	3月	火災発生
----	-------	----	------

8 ボランティア・実習等の受入れ

実習生を青森県立保健大学、青森大学、弘前学院大学より14人、他ボランティア3人を受入れた。

9 地域との連携

青森市幼保小連携推進協議会、東青地区特別支援連携協議会、青森県私立保育協会、青森県知的障害者福祉協会など、地域の会合等に参加した。

I キッズサポートあるふぁ

1 概 況

発達支援を必要とする児童（主に発達障がい）を対象に、本人の特性と段階に沿った個別支援計画を作成した。日常生活において自立的に行動できる力を身に付けるための支援を行った。また、家庭療育や児童の発達に関する相談、他療育機関や学校への移行に関する支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 児童発達支援センターの運営体制整備

毎月の支援会議にて、運営上の課題について協議した。（食事提供・身体測定・保育園との連携など。）

(2) アセスメント力の強化

発達障害の特性等について会議・研修会等で話題とし、共有した。

(3) 各種連携・相談の実施

保育所との打ち合わせ、保護者による相談機会について周知し、要件を満たすものは家庭支援加算を取得した。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
児童発達契約者数(人)	27	30	30	30	32	32	33	33	36	36	36	35	
営業日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	
延べ利用人数(人)	208	237	237	263	249	245	272	248	258	259	231	249	2,956

4 事業の実施状況

(1) 定 員

12人

(2) 概 要

児童発達支援センター化したことに伴い、保育所等への送迎、給食の提供、健康管理のための連携などを行いつつ、それぞれの児童の理解度や発達段階に合わせ、コミュニケーション・適切な行動を維持・強化する支援を行った。

5 行 事

行事名	実施日等	内 容
遠 足	9 月 17 日 11 月 19 日	奥野中央公園（雨天中断） カクヒロスタジアム
卒園式	3 月 21 日	14 家族参加（県民福祉プラザ）
季節の行事	5 月	端午の節句
	7 月	七夕
	10 月	ハロウィン
	12 月	クリスマス
	2 月	節分
	3 月	ひな祭り
各種レクリエーション		
ゲーム	13 回	季節のゲーム
音 楽	14 回	季節の音楽
製 作	11 回	季節の製作活動
外遊び	7 回	外出（散歩・水遊び）
おやつ作り	5 回	フルーツポンチ等

II デイサービスセンターすこやか

1 概 況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする主に小学生を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの発達や自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 「支援の成果・効果」の満足度向上

申し送り及び面談時に写真や動画を活用しながら、支援の成果・効果を保護者に伝えた結果、満足度調査での評価が前年度よりも 13.9% 上昇した。

(2) 個々のニーズに合わせた専門的支援の提供

心理担当職員による専門的支援を提供する体制づくりを行い、継続的に実施した。

(3) 各種相談・連携の実施

① 関係機関との連携（関係機関連携加算 5 ケース）

送迎時やモニタリング時などに学校や関係機関などと連携して情報共有し、相談しやすい関係性を構築した。しかし、学校などと連携して行う個別支援計画を提案・作成するための会議の日程調整に難航し、開催することができなかった。

② 家庭との連携（家庭支援加算・子育てサポート加算 5 ケース）

ペアレント・トレーニングを開催し、家庭連携加算を 2 ケース取得した（ペアレント・トレーニングによる加算はライフサポートあおば全体では 10 ケース）。

(4) 事業所外観の整備及び地域住民とのかかわりの構築

事業所周辺にお住いの地域住民の方々へ挨拶を兼ねて広報誌などを配布し、事業内容をお知らせしつつ、地域ニーズの聞き取りを行った。また、ゴミ・落ち葉拾い及び雪片づけを定期的に行い、事業所内外の整備に努めた。

3 利用児童の状況

内 容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
契約者数(人)	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	
営業日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
授業終了後利用(人)	196	228	227	179	64	224	266	243	179	175	207	199	2,387
学校休業日利用(人)	60	11		97	155	8	11	8	52	58	20	49	529
延べ利用人数(人)	256	239	227	276	219	232	277	251	231	233	227	248	2,916

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10 人

(2) 概 要

主に小学生向け放課後等デイサービスとして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。個別サポート対象児が多く在籍することから、環境設定と介入方法について支援技術を高め、児童の健全な発達と自立を促した。また、心理担当による支援を実施し、専門的な支援の強化を図った。

5 行 事

行事名	実施時期	内 容
季節の行事	5 月	端午の節句
	7 月	七夕
	10 月	ハロウィン
	12 月	クリスマス
	2 月	節分
	3 月	ひな祭り
イベント週間	夏季 2 週間	ゲーム・製作・奥野中央公園散策など。
	冬季 1 週間	調理・ゲーム・製作など。

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概 況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする児童を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）、保育所等訪問支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 訪問件数延べ 180 件（保育所等訪問支援）

各月で安定した訪問回数を維持したことにより、年間訪問件数 197 件となった。

(2) 訪問支援業務の標準化（保育所等訪問支援）

保育所等訪問支援マニュアルを運用し、3 か月に 1 回、その内容を点検し、必要に応じて見直しを行った。また、保育所等訪問支援ガイドラインの周知・徹底を図った。

(3) 個々のニーズに合わせた専門的支援の提供（放課後等デイサービス）

個々のアセスメント情報に基づいて心理担当職員が専門的支援実施計画を作成し、実施した。個別支援計画のモニタリングに合わせて支援の見直しを行った。

(4) 標準的なアセスメント技術の定着（放課後等デイサービス）

支援会議、ミーティングの時間等を活用し、アセスメントに関する研修機会や話し合いの機会を設定した。また、外部研修、内部研修で学んだことを会議の際にフィードバックした。

(5) 成人期に向けた生活イメージの情報提供（放課後等デイサービス）

八甲学園サンハウスと連携し、児童・保護者向けの見学会を実施した。質疑応答などを設定し、成人期に向けた生活イメージについて、情報提供した。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
放課後等デイ契約者数(人)	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
営業日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
授業終了後利用(人)	199	238	237	187	61	207	274	231	194	181	210	131	2350
学校休業日利用(人)	61	5		93	166	13	3	8	57	56	17	107	586
延べ利用人数(人)	260	243	237	280	227	220	277	239	251	237	227	238	2,936
保育所訪問契約者数(人)	22	24	24	24	24	24	25	25	25	26	26	26	
延べ利用人数(人)	17	20	22	18	9	16	22	16	15	20	14	8	197

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10人

(2) 概 要

① 放課後等デイサービス

発達支援を必要とする児童を対象にして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。細かな環境設定と介入方法について支援技術を高め、作業・生活スキルの定着を狙い、さらには将来の生活に必要な情報の整理と移行支援を行った。

② 保育所等訪問支援

保育所等へ訪問し、本人の行動観察をした上で、児童への直接支援（状況に応じた直接的な関わり）、担任等への間接支援（面談・助言）を行った。また、多職種と連携しての訪問や、担当者会議に参加した。

IV 障害児等療育支援事業

1 概 況

青森市より当事業団が「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばにて担当した。保育所等からの依頼・紹介も多く、総件数が増えた。

2 利用状況

事業内容	件 数
訪問による療育指導	29 件
外来による専門的な療育相談・指導	2 件
療育技術の指導	142 件

第8 就労サポートセンターさつき

1 概 況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。なお、就労移行支援事業は、令和6年度末をもって廃止とした。

生産活動は、農産・請負班、清掃・請負班、リサイクル班及び就職専科の4班体制で実施した。農産・請負班の水稻事業では、播種から刈取作業まで順調に進捗し、収穫量は約39トン（約650俵）（目標37トン）となり、昨年の37トン（約617俵）を上回った。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当たり（1,000㎡・1反）8.8俵を収穫した。リサイクル班は、農産・請負班と連携して薪の生産に取り組んだ。就職専科は、延べ210人の利用者に対し一般就労に必要なハローワークでの求職活動の方法やリラクゼーション方法について支援し、このうち2人が一般就労した。

就労支援事業収入全体では、約156万円の収入増となり、利用者の工賃を増額することができた。

地域貢献等については、大運動会及び大収穫祭は通常通り実施することができたほか、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

定員に対する利用率は、利用者の就労移行支援事業のニーズが乏しく、全体で83%（目標90%以上）となり、目標を達成できなかった。

令和6年度新規利用者の獲得は、実習等の積極的な受入れにより2人（目標2人）となった。

薪販売総額は、1,497,375円となり前年（1,404,000円）比5%増の目標を上回った。

事業所の収支差額は、新規利用者数及び生産活動収入は増加しているが、配置人員の人件費及び物価高騰の関係により、総収入額の3%以上の目標を達成できなかった。

2 重点事項の実施状況

（1）安定的経営基盤の構築

定員に対する利用率は、全体で83%（目標90%以上）、新規利用者2人（目標2人）獲得、米収穫量及び薪販売額前年比5%増を達成したが、配置人員の人件費及び物価高騰の関係により、総収入額の3%以上の目標を達成できなかった。

（2）大学生及び高校生等のボランティアの定期的受入れ

大学1校（31人）、高校6校（43人）を受入れた。

（3）経営指導の受審

税理士により財務会計に関する事務処理体制に係る支援リストに基づき受審した。

（4）サポーターズカレッジの受講促進

管理者及び支援員が、取組が義務化された研修を優先的に、4カリキュラム以上を受講した。

3 職員の状況

職 名	センター長 (サビ管)	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	技能員	運転員	合 計 (人)
職員数	1	1	5	2	3	2	4	18

4 利用者の状況

区 分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B 型 事 業	合 計 (人)	就労定着 支援事業(人)
定 員	6	30	36	
年度当初 利用者数	2 (男 2・女 0)	37 (男 31・女 6)	39 (男 33・女 6)	5 (男 5・女 0)
年度末 利用者数	0 (男 0・女 0)	37 (男 32・女 5)	37 (男 32・女 5)	6 (男 5・女 1)

※平均年齢（令和 6 年度末）＝全体：35 歳（男性：34 歳・女性：43 歳）

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。

期 間	人数	実習場所
10/7～10/25	1	酸ヶ湯温泉(株)
11/21～11/29	1	イオン東北(株)マックスバリュ平内店
12/17～12/20	1	就労継続支援 A 型事業所きらめき
1/14～1/17	1	バンドーウェルフェアグループ(株)(有老)ケアバンドー青森南

② 就労継続支援 B 型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況 (円)

班 名	令和 6 年度(A)	令和 5 年度(B)	前年比(A－B)
農産・請負班	14,942,472	14,702,549	239,923
清掃・請負班	753,600	753,600	0
リサイクル班	10,810,210	9,489,481	1,320,729
就職専科			
計	26,506,282	24,945,630	1,560,652

(3) 工賃の支給状況

区 分	就労継続支援 B 型	
	延人数 (人)	支給金額 (円)
年間合計	8,674	12,202,071
1 人当たり 月平均額	30.2	33,670

(4) 就職に向けた取組

月日	人数	見学先
10/3	1	(株)サンパワー

(5) 行事関係等(地域交流及び貢献を含む)

月	行事(土日開所)	地域交流活動等
4月		・茂浦地区清掃(20日) ・県道9号線清掃(20日)
5月	・夜越山クロスカントリー大会/資源回収(3日) ・菜の花マラソン大会/資源回収(12日)	・県道9号線清掃(15日)
6月	・保護者懇談会(8日) ・大掃除/スターラボ(22日)	・茂浦地区清掃(8日)
7月	・地引網交流体験/資源回収(27日)	・夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放(13日) ・県道9号線清掃(19日)
8月	・障害者スポーツ大会事前練習及び映画鑑賞/資源回収(3日) ・浅虫水族館見学/資源回収(10日) ・大運動会/資源回収(17日) ・障害者スポーツ大会/資源回収(25日) ・夏のバーベキュー/資源回収(31日)	・だいすき海岸清掃奉仕(2日) ・県道9号線清掃(21日)
9月	・あおもりシニアフェスティバル参加(7日) ・夜越山ほたての祭典/生産活動(15日) ・秋のバーベキュー/スターラボ/生産活動(28日)	・県道9号線清掃(10日)
10月	・アップルワークボウリング大会(6日)	・県道9号線清掃(8日)
11月	・大収穫祭(12日) ・バスケット体験/クレープ作り/生産活動(16日)	
12月	・バトミントン体験/ホットケーキ作り/生産活動(7日) ・利用者忘年会/生産活動(14日) ・年末大掃除/スターラボ(21日)	
1月	・ドッチボール体験/スターラボ/生産活動(11日) ・映画鑑賞/生産活動(18日) ・ソフトバレー体験/調理体験/生産活動(25日)	・茂浦青年団権現舞訪問(17日)
2月	・冬のバーベキュー/生産活動(8日) ・室内サッカー体験/ホットケーキ作り/生産活動(22日)	
3月	・カラオケ体験/スターラボ/生産活動(1日) ・映画鑑賞/フライングディスク体験/生産活動(8日) ・利用者歓迎会/生産活動(28日)	

(6) 送迎体制

コース名	行き先
平内町(野辺地)	小湊、清水川
青森市内(東方面)	小柳、戸山、諏訪沢
青森市内(山通り)	観光通り、筒井、戸山
青森市内(浜通り)	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入れ

土日開所日、大運動会及び大収穫祭において、学生及び地域住民をボランティアとして年間延べ80人受け入れた。

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4人）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計（件）
受付件数	0	0	1	0	1
解決件数	0	0	1	0	1
繰越件数	0	0	0	0	0

(9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、厚生労働省の通知に基づき、毎朝自宅及び送迎車両乗車前において検温し、発熱していないことを確認してから送迎車両に乗ることを徹底した。

(10) 安全管理・防災対策

地震及び津波想定避難訓練と炊き出し訓練を6月13日、火災による避難訓練を年2回（7月23日、2月13日）、不審者対応訓練を2月13日、BCP 実地訓練及び感染症発生時のゾーニング対応訓練を3月14日に実施し、利用者の安全確保に努めた。

(11) 所内会議等

会議名	回 数
質の向上推進会議	年4回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修へも積極的に派遣した。

(13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ随時更新
- ④ 見学者（養護学校教諭・生徒）の積極的な受入れ

(14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営 業 日 毎週月～金曜日
- ② 営 業 時 間 14:30～18:00（ただし、小学校長期休業期間は8:00～17:00）
- ③ 利 用 契 約 者 34人
- ④ 協働活動リーダー 5人
- ⑤ 地域コーディネーター 1人

【令和6年度の実績】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数 (A)	18	21	20	20	18	19	27	20	19	17	16	19	234
	18	20	21	18	20	19	20	18	19	17	17	20	227
延利用者数 (B)	134	98	89	210	209	83	99	90	130	163	78	107	1,490
	108	66	80	131	185	77	75	62	102	107	60	104	1,157
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	7.4	4.6	4.5	10.5	11.6	4.3	3.6	4.5	6.8	9.5	4.8	5.6	6.3
	6	3.3	3.8	7.2	9.2	4.0	3.7	3.4	5.3	6.2	3.5	5.2	5.0

※上段：当年度、下段：前年度

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスの提供に努め、入居者の能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

入居者の権利擁護の推進にあたっては、年2回研修会を実施したほか、虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心に、年2回の虐待の芽チェックリストで自己評価後、全体で振り返りを行い、気になる内容について、職員研修で意見交換を行い、虐待防止に努めた。

地域や家庭との結びつきについては、感染症の発生に伴い、ユニット単位で一時的に交流や面会を中断した時期もあったが、ユニット内の対面面会を継続した。また、3月には家族連絡会を開催し、ニーズアンケート集計結果の報告や令和7年度事業計画について説明する等、交流する機会を持った。地域貢献活動については、近隣町会の清掃活動や行事の会場設営等に積極的に参加したほか、関係団体が主催する、こころの縁側事業や老人クラブに職員を派遣し、すこやか苑の持つ専門性や技術を、研修や講座を通して地域に発信した。

ボランティアについても間接的な作業の受入れを始め、アロマハンドマッサージや行事運営補助、介護業務の体験等、延べ22人の受入れを行った。また、入居者の受入れについても、居宅介護支援事業者や保健医療機関等と密接な連携を図りながら総合的なサービスの提供に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 入居者主体の支援

入居者・家族とのコミュニケーションを大切にし、可能な限り本人・家族にも参加してもらいながら、1回/3か月以上カンファレンスを開催し、思いを尊重した施設サービス計画書を作成し、入居者主体の支援に努めた。

24Hシートについては、各ユニットで見直しと更新の作業を行い、活用できる状態に整備したが、入居者の状態変化に応じた更新作業が追い付かず、充分活用することはできなかった。

(2) 医療的ケアの充実

看取りケアを含む医療的ケアの研修会を実施し、医療的ケアの充実を図った。喀痰吸引等の研修についても、新たに1人が資格取得したほか、有資格者は、手技が衰えないよう月1回特定行為の実施に努めた。

(3) 人材確保と定着

介護福祉士養成校へのPR活動を行ったほか、介護の支え手による介護サポーター（介護助手）の採用に向け、事業所説明会を実施する等、人材確保に努めた。

(4) 安定的な経営基盤の確保

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護では、目標数値を0.95人下回り平均入居者数27.8人、短期入所生活介護では、目標数値を0.31人上回る平均入居者数9.1人であったが、収支の改善には繋がらず、年度決算としては大幅な赤字収支となった。

新たな加算取得を検討したが、体制等の準備が整わず算定できなかった。

(5) 職場環境の改善

ノーリフティングケア委員会が中心になり、あおもりノーリフティングケア推進事業に係る研修会を受講し、ノーリフティングケアを推進するモデル施設となった。

働きやすい職場づくりの体制強化については、可能な限り希望休を組み込んだシフト表の作成や夜勤明け後の休日調整を行ったほか、短時間労働者の人材確保が出来たことにより、見守り支援が充実し、介護スタッフの精神的負担を軽減することができた。

3 職員の状況

職 名	施設長	医 師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人 数	1	1 (非常勤)	1	3	21 (非常勤含む) 【23】※2	1
職 名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員	介護助手・労務員	計
人 数	1	1	1	3	7	41

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。

※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【23】に含む。

4 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
新任職員研修会	4/3、12/24	計 9 人	高齢者施設の基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニットケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応など
救命救急研修	4/24、11/27	計 46 人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/8、10/30 3/26	計 49 人	食中毒や感染症予防策ガウンテクニック、感染症の拡大防止策や嘔吐物処理法、BCP（感染症編）研修・訓練
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/26、1/29	計 32 人	虐待の5種類・虐待と認知症の関係 事前アンケートの実施と虐待の芽チェックリストの実施による自由記述内容に基づく意見交換など
リスクマネジメント研修	7/31、12/25	計 36 人	事故防止の知識・ヒヤリハットの目的と意義、危険予知トレーニングなど
看取り介護研修	9/18	計 10 人	外部講師を招いて、他施設の看取り介護に関する取組状況の確認と事前アンケートにおけるQ&Aなど
感染症対策研修	10/30、3/30	計 18 人	感染症の拡大防止策や嘔吐物処理法、BCP（感染症編）研修・訓練など
口腔ケア研修	2/26	計 12 人	口腔ケアの効果と目的、口腔体操の実施方法など

5 行事

(1) 年間行事・クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
ドライブ外出	4/18、19、22	34 人	外出機会を設け、季節感や爽快感を感じてもらった。
夏祭り・居酒屋	7/24	33 人	夏に因んだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
手踊り演舞会観覧	7/20	35 人	石川吉梅会の子供達による手踊り演舞を観覧した。
ねぶた観覧	8/11	17 人	浜館町会ねぶた愛好会を観覧し、季節を感じてもらった。
外出	9/7	3 人	シニアフェスティバル警察音楽隊コンサート外出を実施した。
敬老会	9/18	34 人	職員が歌や踊りを披露したほか、顕彰状や記念品を贈呈し、敬老の日をお祝いした。
ミニ運動会	11/27	36 人	ユニット対抗で玉入れやサイコロゲーム、お手玉選手権などの競技を行った。
新年会	1/8	37 人	新年に因んだアトラクションと職員による紅白歌合戦を披露し、新年を祝った。
ピアノと二胡の演奏会	2/26	35 人	音楽鑑賞の機会を提供し、入居者の生活に楽しみを創出した。
家族連絡会	3/16	14 人 (家族)	令和 6 年度ニーズアンケート結果報告と令和 7 年度事業計画について説明したほか、懇談会を開催した。

(2) クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
書道クラブ	年 11 回	延 128 人	4/10、5/22、6/19、7/18、8/21、9/25 10/23、12/18、1/22、2/19、3/19
おしゃべりくらぶ	年 4 回	延 118 人	5/15、7/10、11/13、3/3
音楽体操クラブ	年 6 回	延 173 人	4/17、6/12、8/14、10/9、12/11 2/12

(3) 会議・各種委員会等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	年 12 回	各回 約 15 人	施設長からの指示事項ほか、協議伝達等
ユニットリーダー会議	年 12 回	各回 5 人	ユニットリーダーを中心にユニット運営について協議
給食会議	年 12 回	各回 7 人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	地域 154 回 短期 20 回	各回 約 7 人	施設サービス計画や短期入所生活介護計画書作成など介護方針の協議決定
運営推進会議	年 6 回	各回 約 6 人	施設運営の現状報告、課題等への助言等
苦情解決協議会	年 4 回	6 人	各種苦情解決へ向けての協議 (苦情：0 件)
苦情解決第三者委員 相談日	年 10 回	延 23 人	第三者委員が輪番制で来苑し、苦情、要望の聞き取りを対面で実施

入所判定会議	年 9 回	各回 約 6 人	入居者の決定に当たり、決定過程の 公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・ 感染症対策委員会	年 12 回	各回 約 9 人	月ごとの事故分析・対策検討 食中毒・インフルエンザ・新型コロナ ウイルスなど感染症対策について 協議、褥瘡予防改善に向けた検討、 BCP（感染症編）研修・訓練の企 画運営及び見直し
虐待防止・身体拘束廃 止委員会	年 7 回	各回 約 8 人	虐待が疑われる案件や身体拘束が疑 われる案件等について協議
ノーリフティングケア 委員会	年 11 回	各回 約 9 人	介護機器やノーリフティングケアの 導入に向け検討及び腰痛調査、職場 環境調査の実施、あおもりノーリフ ティングケア推進事業への参加
看取り介護実施委員会	年 3 回	各回 約 9 人	看取り介護の振り返りと指針やマニ ュアルの見直し
研修委員会	年 4 回	各回 約 3 人	内部研修・研究発表に関する企画・ 実施
防災委員会	年 2 回	各回 約 9 人	防災マニュアルの整備や防災訓練の 企画運営、BCP（自然災害編）の 研修・訓練の企画運営及び見直し

6 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考																												
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全入居者	体温・血圧・SPO2・一般状 態や皮膚状態の観察等																												
体重測定	毎 月	全入居者	低体重者は 1 回／2 週間測定																												
配置医診察	毎週木曜日	全入居者	入居者の診察・薬の処方・検査 や通院等の指示等																												
通院・往診	随 時	通院が必要な入居者	(通院) <table border="1"> <tr> <td>泌尿器科</td><td>5 人</td><td>消化器内科</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>整形外科</td><td>14 人</td><td>精神科</td><td>0 人</td></tr> <tr> <td>皮膚科</td><td>14 人</td><td>内分泌科</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>外科</td><td>0 人</td><td>認知症外来</td><td>0 人</td></tr> <tr> <td>耳鼻科</td><td>1 人</td><td>循環器内科</td><td>1 人</td></tr> <tr> <td>眼科</td><td>2 人</td><td>救命救急</td><td>6 人</td></tr> <tr> <td>脳神経外科</td><td>0 人</td><td>腎透析</td><td>156 人</td></tr> </table> ※歯科往診 45 人 ※延人数、短期入所利用者除く	泌尿器科	5 人	消化器内科	3 人	整形外科	14 人	精神科	0 人	皮膚科	14 人	内分泌科	3 人	外科	0 人	認知症外来	0 人	耳鼻科	1 人	循環器内科	1 人	眼科	2 人	救命救急	6 人	脳神経外科	0 人	腎透析	156 人
泌尿器科	5 人	消化器内科	3 人																												
整形外科	14 人	精神科	0 人																												
皮膚科	14 人	内分泌科	3 人																												
外科	0 人	認知症外来	0 人																												
耳鼻科	1 人	循環器内科	1 人																												
眼科	2 人	救命救急	6 人																												
脳神経外科	0 人	腎透析	156 人																												
予防接種	10 月 11 月	入居者	新型コロナウイルスワクチン インフルエンザワクチン																												
口腔ケアに係る技術的助 言及び指導	月 1 回	看護職員 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言 指導																												
機能訓練	週 2 回程度	全入居者	機能訓練計画書による個別機能 訓練 短期入所利用者は集団体操																												
ラジオ体操	週 3 回程度	入居者	毎週月・水・金																												
訪問理美容	第三水曜日 ほか	延 110 人	訪問美容：毎月第三水曜日 訪問理容：毎月第三木曜日																												

7 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（夜間火災想定・消火・通報訓練、BCP研修・訓練）	5/29	53 人	職員 32 人、入居者 21 人
防災訓練（通報・消火・避難訓練、地域防災協力隊の活動内容の確認、BCP研修・訓練）	10/5	65 人	職員 24 人、入居者 31 人 地域防災協力隊 10 人
防災訓練（地震・水害・土砂災害を想定した対応訓練、備蓄食品保管場所の確認・試食、防災土による講話）	11/6	18 人	職員 18 人、家族 1 人

8 地域（住民・ボランティア）との連携と地域貢献

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
書道指導	4/10	1 人	ボランティア
お花見ドライブ外出補助	4/19、22	3 人	ボランティア
送迎車・車椅子清掃	5/7	1 人	ボランティア
虹ヶ丘町会 春の清掃	5/12	5 人 (職員)	地域貢献
浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	5/13	1 人	地域貢献
おしゃべりクラブ運営補助	5/15	1 人	ボランティア
書道指導	5/22	1 人	ボランティア
虹ヶ丘町会 ひまわり通り花壇の花植え	5/26	6 人	地域貢献
車椅子清掃・入居者散歩補助	6/7	1 人	ボランティア
車椅子清掃・洗濯畳み	7/5	1 人	ボランティア
アロマハンド・フットマッサージ	7/8	1 人	ボランティア
書道指導	7/18	1 人	ボランティア
虹ヶ丘町会夏祭り会場設営	7/27	2 人 (職員)	地域貢献
車椅子清掃・洗濯畳み	10/22	1 人	ボランティア
車椅子清掃・入居者外出補助	10/24	1 人	ボランティア
老人クラブほのぼの会 健康講話	10/25	1 人 (職員)	地域貢献
介護業務見学・補助	11/27～29	1 人	ボランティア
書道指導	2/19	1 人	ボランティア
音楽演奏会補助	2/26	3 人	ボランティア
アロマハンドマッサージ	3/11	1 人	ボランティア

書道指導	3/19	1 人	ボランティア
お化粧セラピー	3/28	1 人	ボランティア

9 実習の受入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
令和 6 年度社会福祉基礎実習Ⅰ	7/3	4 人	青森県立保健大学 1 年生
職場体験	7/4～7/5	4 人	青森市立戸山中学校 2 年生
福祉施設職場体験	7/17	1 人	青森私立明の星高等学校
令和 6 年度ソーシャルワーク実習Ⅱ	8/5～9/5	1 人	青森県立保健大学 3 年生
義務教育教員免許志願者に対する介護体験	8/19～8/23	1 人	弘前大学教育学部
2024 年度介護実習	9/2～9/21	1 人	青森明の星短期大学 1 年生
介護労働講習（実務者研修含む）に係る介護現場実習	10/28～10/30	2 人	介護労働安定センター
令和 6 年度ソーシャルワーク実習Ⅰ	11/18～11/27	2 人	青森大学 2 年生
令和 6 年度ソーシャルワーク実習Ⅰ	12/23～1/31	1 人	青森県立保健大学 2 年生

10 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

（1）概 況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和 6 年度の入退居状況については、入居が 10 人、退居が 12 人という状況であった。平均介護度は 4.3、平均年齢は 91.9 歳だった（令和 6 年度末時点）。

稼働率は、平均 95.8%で前年度比 2.5%と下回った。目標数値についても 0.95 人下回る平均入居者数 27.8 人の結果となった。

【稼働率と実数】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働率(%)	95.2	93.5	96.7	96.3	96.9	90.2	95.6	100	96.6	96.6	96.6	95.4	95.8 (平均)
実 数(人)	828	841	841	866	871	785	859	870	868	868	784	858	10,139

（2）定 員

29 人（10 人×2 ユニット、9 人×1 ユニット）

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

（1）概 況

居宅の要介護者等に、入居者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負

担を軽減できるようサービスを提供した。

令和6年度の新規契約者数は5人、平均介護度は3.2、平均年齢は87.0歳だった。

稼働率は、平均91.7%で前年度比12.7%上回り、目標数値についても0.31人上回る結果となった。

【稼働率と実数】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働率(%)	91.0	91.0	91.7	92.6	86.1	89.3	93.2	97.7	89.4	89.4	99.3	90.0	91.7 (平均)
実数(人)	273	282	275	287	267	268	289	293	277	277	278	279	3,345

(2) 定員

10人(10人×1ユニット)

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

第 10 就労サポートセンターはくちょう

1 概 況

令和 6 年度の運営にあたっては、事業所の理念に基づき、就労継続支援 B 型事業と共同生活援助事業を一体的に運営した。特に、多様化する個別のニーズに対し、権利擁護と意思決定を支援の根幹とし、地域の中で生きがいを持ち日々の生活を営むことができるよう支援体制の整備に努めてきた。

就労継続支援 B 型事業では、地域産業との連携強化に向け、漁業資材加工等の水産連携に努めるとともに、企業・行政等と連携し生産活動の充実に努めてきた。しかし、温暖化等の影響による海水温の上昇に伴い、ホタテ養殖全般において影響を受ける等、今後の生産活動について懸念されるところである。

共同生活援助事業では、地域社会の中で、自立した地域生活を営むことができるよう、多様なニーズに寄り添った支援体制の充実に努めてきた。特に、入居者の高齢化や心身の機能低下等が顕著であり、2 人の方が一般就労から福祉的就労へと移行した。さらに、疾病等により医療機関の受診も増加傾向にある。これらにより、継続して地域生活を営むことが困難な利用者については、本人と家族へ情報提供するとともに、高齢者施設等への移行も含め、関係機関（相談支援事業所）と情報共有を図った。

感染症対策では、入居者の大半が基礎疾患を有していることから、年間を通して基本的な感染症対策に努めた。さらに、BCP 訓練を計画的に実施し、役割分担の明確化と発症時の対応を職員間で共有した。

災害対策においては、地域で想定される災害（地震、風水害、土砂災害等）について理解を深めるとともに、有事に備えた地域との協力体制を明確化にした。また、災害リスクに備え、BCP に則った訓練の実施と防災体制の整備に努めた。

地域貢献・地域交流については、地域の海岸清掃奉仕活動、小湊駅前の花壇整備、平内町主催の各種イベントへ積極的に参加し、地域住民との交流及び事業所（グループホーム含む）の理解促進に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者の特性に応じた支援体制の構築（共通）

障害特性に合わせた適切なサービス提供に向け、研修計画に則った事業所内外の研修（オンライン研修含む）及び発達障害支援力強化事業検討委員会のコンサル事業へ参加し、専門性の向上と支援体制の見直しを図った。

虐待防止対策では、虐待防止対応規程に基づき、全職員を対象とした研修（オンライン研修含む）の実施、セルフチェックの実施（SDS チェック、コンプライアンスチェック、ストレスチェック等）、啓発活動を実施し、権利擁護の推進に努めた。

(2) 安定的経営基盤の構築（共通）

就労継続支援 B 型事業においては、1 人の方と契約を締結した。開所日を含めた 1 日あたりの平均利用率は 100% を超える高い利用率を維持することができた。

共同生活援助事業においては、新規利用者獲得に向け相談支援事業所及び関係機関等と連携を図り、年度内に 1 人の方と契約を締結した。

(3) 感染症予防、災害発生時における管理体制の整備（共通）

感染症及び自然災害が発生した場合でも安定的、継続的にサービス提供できるよう、BCP の策定及び研修（机上、実地訓練）を計画的に実施し体制の整備に努め

た。また、利用者向け学習会として、外部講師による健康教室、手洗いに関する学習会を実施し感染対策による意識付けを行った。

災害対策では、地域で想定される自然災害等（水害、地震、土砂災害）の非常事態に備え、地域自治体との協力体制について承諾書を交わし体制の強化に努めた。防災訓練の一環として、炊き出し訓練や防災学習会を実施し災害対策の強化に努めた。

（４）グループホーム運営に係る体制整備（共同生活援助事業）

第２スワンハイムにおいて、入居者の障害支援区分の見直しにより消防法によるスプリンクラー設備が必要になったことから、設置した。

グループホームの老朽化対策として、平内町内を中心に新たな物件情報を収集したが、利用者数に見合った物件でなかったことや築年数が相当経過している等、新たな物件として見込めなかった。

（５）生産活動の充実（就労継続支援Ｂ型事業）

社会情勢による物価高騰や温暖化による海水温上昇等に伴い、生産活動全般（請負）において影響を受けた。特に、ホタテ養殖のへい死により、地域の漁業関係者から依頼を受けていた漁業資材（養殖カゴの解体、ピン取り、ピン差し等）にも大きな影響を受ける結果となった。

新たな取引先として、市内企業からパンフレット封入作業や地域の漁業関係者の紹介等で漁業資材の依頼があり、生産活動の拡充に繋がった。

３ 職員の状況 ※（ ）兼務

職 名	所長	副主任 支援員 (サビ菅)	支援員	事務員	世話人	調理員	合計
就労継続 支援Ｂ型	１	１	４ (１)	１		３	１０
共同生活 援助事業	(１)	１	２ (１)		５		８
計	１	２	６	１	５	３	１８

※管理者は両事業の管理者及び共同生活援助事業の生活支援員を兼務

事務員は就労継続支援Ｂ型事業の生活支援員を兼務

共同生活援助事業のサービス管理責任者は支援員を兼務

４ 職員研修（共通）

人材育成実施要綱及び研修計画に基づいた事業所内外の各種研修へ積極的に参加するとともに、オンライン研修の充実を図り、専門的知識の習得と質の高いサービス提供に向け職員の資質向上に努めた。

５ 年間行事

月	就労継続支援Ｂ型事業	共同生活援助事業
４月	浅所海岸清掃ボランティア	
５月	保護者懇談会 避難訓練（地震、津波）	保護者懇談会
６月	大掃除、利用者の会 避難訓練（火災）	避難訓練（風水害想定） 地域交流（小湊駅前花壇整備）・買物外出
７月		買物外出
８月	ＢＢＱ	買物外出

9 月	利用者の会	買物外出
10 月	浅所海岸清掃ボランティア 避難訓練（地震、津波、風水害）地域 防災懇談会、炊き出し訓練	買物外出
11 月	避難訓練（火災想定）、B B Q 利用者の会	避難訓練（火災想定） 買物外出
12 月	大掃除	
1 月		
2 月	利用者の会 苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）	食事会 苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）
3 月		

※共同生活援助事業では、個別外出の充実に努めた。

・定例行事

内 容	回 数	備 考
体重測定 誕生日プレゼント贈呈	毎月 1 回	就労継続支援 B 型事業のみ
苦情相談日（第三者委員）	毎月 1 回	共通

6 健康管理（共通）

利用者の健康状態の把握と疾病の早期発見に努めた。感染症対策では、感染症委員会を中心に感染症対応マニュアル及び B C P の策定及び見直しを適宜行い、発症時の対応を職員間で共有した。

就労継続支援 B 型事業では、外部講師による健康教室を実施し、自身の身体の状態を確認し、生活習慣病の予防や健康増進を促した。また、感染症対策として、手洗いに對する学習会を実施し、手洗いの大切さを意識付けした。

7 安全管理・防災対策（共通）

防災計画に則り、火災、地震、風水害を想定した避難訓練を計画的に実施し、利用者の安全確保と緊急時の対応に備えた。さらに、災害時における地域自治体との協力体制を整備し避難先での見守りや無外による搜索協力等、関係性の強化に努めた。

防災対策では、緊急時を想定した炊き出し訓練を昨年引き続き実施し、災害に對する意識付けと備えを共有した。

利用者の事故防止については、リスクマネジメント委員会を中心に、再発防止策の検討及び事故の未然防止に努めた。

《避難訓練実施状況》

就労継続支援 B 型	グループホームスワハム（第 1・2・3）
5 月 8 日 救急救命講習	5 月 8 日 救急救命講習
5 月 15 日 地震、津波想定	6 月 24 日 風水害想定
6 月 19 日 火災想定	11 月 14 日 火災想定
10 月 18 日 地震、津波、風水害	12 月 25 日 不審者対応訓練
10 月 25 日 地域防災懇談会・炊き出し訓練	
11 月 13 日 火災想定	
12 月 25 日 不審者対応訓練	

8 苦情解決事業及び虐待防止（共通）

苦情解決事業及び虐待防止対応規程に基づき、人権侵害や虐待が生じることがないよう、第三者委員との面談及び相談体制を整備し利用を促した。

区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

9 ボランティアの受入れ（就労継続支援B型事業）

受入人数	延べ日数	備 考
1 人	21 日	余暇活動（将棋相手）

10 実習生等の受入（就労継続支援B型事業）

区 分	受入期間	人数	学 校 等
実 習	11月5日～11月15日間（9日間）	1 人	青森県立青森第二養護学校
実 習	9月5日（1日間）	2 人	青森県立青森商業高等学校

11 社会参加の促進（地域貢献・地域交流）（共通）

- （1）平内町白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）へ、延べ30人の利用者、職員が参加し、地域貢献と地域住民との交流を図った。冬期間においては、浅所海岸の除雪作業も行った。
- （2）平内町教育委員会主催のフラワーロード活動（6月）へ、14人の利用者、職員が参加し、地域の環境整備に努めた。
- （3）グループホーム第2スワンハイム近隣住民との交流及び事業所の理解促進を図るため、小湊駅前の花壇整備（6月）へ、利用者5人、職員が参加した。
- （4）ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参加し、地域の環境保全に努めた。
- （5）近隣保育園との交流を深めるため下記のとおり実施した。さらに、貴保育園から創作品の贈呈（敬老の日）があり、事業所玄関に展示した。

実施日	内 容	場 所
5月29日	ゲーム大会	保育園
9月3日	マラソン交流	事業所グラウンド
10月9日	お遊戯会	保育園

12 広報関係（共通）

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページ等により事業所のPR活動に努めた。

13 所内会議・委員会（共通）

会議名	回 数	備 考
臨時全体会議	年1回	事業計画、指示・連絡事項
事業調整会議	年3回	事業計画、事業報告、事務分担等における協議
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議
GH（世話人）会議	毎月1回	共同生活を営むための相談、日常生活上の援助について協議、所内研修の実施

給食会議（利用者）	毎月１回	給食による利用者の要望、食生活における注意点等の連絡
事業所会議	毎月１回	管理者からの指示事項ほか、協議伝達等
モニタリング調整会議	年２回	サービス等利用計画及び個別支援計画に基づいた支援を行った結果を評価し、必要に応じて見直しを行う。

委員会	回数	備考
虐待防止委員会	毎月１回	SDS チェック、虐待防止研修、啓発活動等
環境整備委員会	年３回	グラウンドの除草及び花壇整備、事業所内の大掃除 屋上排水溝の枯葉除去等
リスクマネジメント委員会	毎月１回	事故の検証及び再発防止策の検討
感染症対策委員会	年４回	感染症対策におけるＢＣＰの見直し及び研修の実施、感染症マニュアルの整備 利用者向け学習会の企画・運営（手洗いの実施等）
危機管理委員会	年４回	自然災害によるＢＣＰの見直し及び研修の実施、避難訓練の計画・実施 不審者対応訓練等
給食委員会	年４回	給食の内容、評価、検討等
サービスの質の向上委員会	年６回	提供する福祉サービスの向上に向けた検討

14 事業の実施状況

I 就労継続支援Ｂ型事業

（１）定 員 20 人

（２）概 要

雇用契約に基づく就労が困難な利用者へ生産活動及びその他の活動の機会を提供し、就労に必要な知識、作業技術の向上に向けた支援を行った。

（３）支援目標

- ① 利用者一人ひとりの障害特性、心身の状態に合わせ、働く喜びと達成感を感じてもらえるよう、個別支援計画に沿った支援を提供した。
- ② 多様化する個別のニーズに対し、適切なサービスが提供できるよう事業所内外の研修へ参加し専門性の向上と支援体制の構築に努めた。
- ③ 生産活動に加え、利用者の健康増進、地域活動への参加を積極的に取り入れ、地域に開かれた事業所作りに努めた。

（４）利用者の状況

区 分	就労継続支援Ｂ型事業	備 考
定 員	20 人	
年度当初 利用者数	25 人 (男 19 人、女 6 人)	
年 度 末 利用者数	27 人 (男 20 人、女 7 人)	契約 2 人
平均年齢 (令和 6 年度末)	39.6 歳 (男：40.9 歳、女 41 歳)	

（５）生産活動

請負作業、清掃作業を中心に、働くことへの意欲及び作業技術の向上を図ることを目的に、実践的な作業の場として事業所内外の就労の機会を提供した。

（６）生産活動の売上状況

内 容	金 額	主な作業内容
清 掃	3,059,064 円	近隣福祉施設、公共トイレ及び当事業所の一般清掃

請 負	1,643,837 円	漁業資材加工、連携商品製造、企業からの受注作業、除雪等
計	4,702,901 円	

(7) 工賃の支給状況

区 分	支給計画	支給実績	備 考
1 人当たり 平均支給額	17,430 円	15,627 円	平均工賃月額は、前年度の工賃支払い総額÷前年度の 開所日 1 日あたりの平均利用者数÷12 月 ※工賃には、一時金（年 2 回）を含む

(8) 送迎体制

送迎車両 4 台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
A コース	小湊、東滝、東和
B コース	内童子、小湊
C コース	小豆沢、小湊、盛田
D コース	浜子、清水川、東北町

II 共同生活援助事業

(1) 定員 19 人

(2) 概要

地域で共同生活を営む利用者に、食事の提供や金銭管理、健康管理等、日常生活上の援助や相談を行った。

(3) 支援目標

- ① 利用者の主体性を尊重し、個別のニーズに寄り添ったサービス提供に努めた。高齢化により、心身の機能低下が顕著に現れている利用者については、関係機関（相談支援事業所）と情報共有を図った。
- ② 権利擁護の推進に向け、各種研修の参加や啓発活動に努め、その人らしい生活を営むことができるよう支援した。
- ③ 移転に向けた不動産情報を収集したが、築年数が相当経過している、入居者と部屋数の条件が合わない等、新たな物件として見込めなかった。併せて、第 2 スワーンハイムにおいて、利用者の障害支援区分見直し等により消防法によるスプリンクラー設備の設置が必須になったことから設置した。
- ④ 地域で共同生活を営むことへの理解促進と地域住民との交流を目的に、地域の自治会活動（小湊駅前の花壇整備）へ積極的に参加し、交流を深めた。

(4) 利用者の状況

区 分	共同生活援助事業	備考
定 員	19 人	
年度当初 利用者数	17 人 (男 12 人、女 5 人)	
年 度 末 利用者数	18 人 (男 13 人、女 5 人)	契約 1 人
平均年齢 (令和 6 年度末)	46 歳 (男 43.9 歳、女 49 歳)	

(5) 地域交流・地域貢献

第 2 スワーンハイム周辺の地域住民との交流及び事業所の理解促進を目的とした、小湊駅前の花壇整備（植栽）に利用者 5 人、職員 3 人が参加した。

第 11 青森障害者就業・生活支援センターすこやか事業報告

1 概 況

年度末時点登録者 823 人（年度内新規登録者 161 人）に対し延べ 4,766 件の助言支援を実施した。なお、一般事業所への就職件数は 113 件であり就職率は 72%、1 年定着率は 87.4%であった。

職業センターへの職業評価依頼 46 件、職業準備訓あっせん 13 件、個別支援計画 31 件、ジョブコーチ支援 22 件を実施した。また、公共職業安定所による障害者試行雇用を 17 件、事業主への相談支援を延べ 1,480 件、関係機関とのネットワーク形成に向けた活動を 45 件実施した。

2 重点事項

（1）計画に基づく事業の実施

- ① 地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等を 7 回実施した。
- ② 職場定着及び就労促進に係る効果的な支援メニューとして、在職者交流会を 1 回、就労移行支援事業所や就労継続支援 A 型 B 型事業所、就労移行支援事業所と連携したピアサポート活動を 2 回実施した。

（2）支援・助言業務の業務標準化

利用者（登録者、事業所）本位の雇用促進サービスの向上に向けて、「登録時のインタビュー及びアセスメント及び検査」「企業実習に係る業務」の手順やマニュアルをシートに落とし込み作成した。

（3）法人内連携

法人内各所属との連携により法人内に企業実習のあっせん先を確保することを所属長会議等で呼びかけ、すこやか苑において実習及び雇用に繋がった。

3 職員の状況

役 職	所 長 (生活支援担当者)	副所長 (主任就業支援担当者)	副主任支援員 (就業支援担当者)	支援員 (就業支援担当者)	事務員 (生活支援担当者)	合 計
職員数 (人)	1	1	1	1	1	5

4 職員研修

関連団体主催の研修（日本財団就労支援フォーラム、全国就労支援ネットワーク、全国ジョブコーチ連絡協議会 C E F）には参加できなかった。就業支援担当者 1 人が J C N E T ジョブコーチ養成研修を受講した。

5 事業概要（行事を含む）

（1）相談・支援業務の実施

- ① 障害者からの相談に対し、指導助言援助を 4,766 件実施した。
- ② 事業主に対し、雇用管理に係る助言を 1,480 件実施した。
- ③ 障害者に対し、センターまたは事業主により行われる訓練、職場実習のあっせんを 87 件実施した。

①～③の実施について、連絡会議による各種関係機関との連携を、センター利用者の個別支援に関するコーディネートとして 1,019 件実施した。

- (2) 地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等を「事業報告会兼支援者勉強会」、「学校見学会兼企業セミナー」「優良企業見学会（県共催隔年）」「青森県障害者就業・生活支援センター連絡会議」4回の計7回実施した。
- (3) 職場定着及び就労促進に係る効果的な支援メニューとして「職場定着促進のための在職者交流活動」1回、「ピアサポート活動」2回の計3回実施した
- (4) 国等が主催する会議・研修等への出席
 - ① 都道府県連絡会議（青森県障害者就業・生活支援センター連絡会議）は4回開催中4回参加した。
 - ② ブロック別経験交流会議（北海道・東北ブロック会議）は1回開催中1回参加した。
 - ③ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が実施する研修は要件に該当する職員が配置されていないため参加しなかった。